
ペルーにおける下層民と政治

1980年代以降の研究の特徴と今後の展開に向けての課題

The Poor and Politics in Peru :

Review of existing studies from 1980s and challenges for the Future Studies

村上 勇介*

MURAKAMI Yusuke

キーワード：政治意識，政治文化，民主主義，ペルー政治，政治参加

KEY WORDS: political consciousness, political culture, democracy, Peruvian politics, political participation

La democracia peruana constituye una de las más inestables y frágiles en Lationamérica. Como causa principal, muchos análisis señalan que los partidos políticos peruanos son caudillistas y que no han tenido una conducta democrática ni han cumplido una tarea democratizadora. Sin embargo, tenemos que prestar atención también a la actitud, conciencia y actividades políticas de los pobres, quienes en su condición de analfabetos mayoritariamente, recién en 1980 consiguieron el derecho de sufragio. Este artículo revisa los estudios existentes desde los años 80 sobre este aspecto. Principalmente se han presentado dos tipos de estudios.

El primer tipo de estudios analiza los movimientos o actores sociales, entre ellos, organizaciones vecinales, comedores populares, rondas campesinas o informales. En este artículo se comparan los argumentos de los que enfatizan sus caracteres democráticos con los argumentos de aquellos que dudan dichos rasgos. El autor señala, por su parte, que han estudiado pocos casos concretos sobre el proceso interno de estas organizaciones y movimientos populares.

El segundo tipo de estudios es el de estadísticas basados en encuestas. No se han presentado tantas obras de este tipo como las del primero. Este artículo revisa críticamente el trabajo de Susan Stokes, quien trata de explicar la “izquierdización” de los pobres, y luego destaca la hipótesis de la “democracia plebiscitaria” presentada por Jorge Parodi.

El autor concluye que además de profundizar los estudios de ambos tipos, debemos vincular estrechamente a ambos para enfocar integralmente la política de los pobres y por los pobres.

* 地域研究企画交流センター助手 Assistant Professor, JCAS

はじめに

本稿は、ペルーにおける下層民の政治行動や政治動向に関する1980年以降の主な研究を概観し、その視角の特徴や限界、および今後の研究における課題を探ることを目的としている。下層民の政治行動を問題とするのは、この点が1980年の民政移管後のペルーの民主政治をめぐる議論において、十分に考慮されてこなかったからである。

本稿で下層民とは、主に経済的な指標から貧困層に分類される人々をさす。歴史的に一貫した統計は存在しないが、1980年代以降に行われた所得を基準とする分類によれば、ペルーの全人口に占める貧困層は、1985/86年に41.6パーセント、91年に55.3パーセント、94年に49.6パーセントだった [Webb Duarte y Fernández Baca, eds. 1995: 46]。人種的には先住民か、先住民と白人の混血 (メスティーツ) で、その多くはアンデス高地など農村からの移住者やその子孫である。貧困層は、首都リマなどの都市では、バリアーダ (barriada, 下層民居住区) やプエブロ・ホーベン (pueblo joven, 「若い集落」) などと呼ばれる居住地区を形成している*1。

ペルーは1980年に民政移管し、5年毎に大統領選挙が実施されている。80年代には、ペルー史上初めて与野党間の政権交代が2度行われた。こうして民主的な手続きの定着が進んだかに見えたが、同時に経済社会

問題が深刻となった。ハイパー・インフレ、経済不況、失業、貧困、テロ、麻薬、汚職、国際的孤立などの問題に直面した社会は混乱し、80年代末にペルーは危機的状況に陥った。

1990年には、政党組織を基盤としない無党派派・独立系のフジモリ (Alberto Fujimori Fujimori) が大統領に当選した。危機的状況の中で困難な政治運営を強いられたフジモリは、92年に議会や裁判所を閉鎖する憲法停止措置をとり、同年末まで独裁制を敷いた。多くのペルー国民は、非民主的として憲法停止措置に反対した野党勢力の主張を退け、強権を発動したフジモリを支持した。95年の大統領選挙でも、ペルー国民は圧倒的支持でフジモリを再選した。こうした経緯は、現在のラテンアメリカで、ペルーの民主政治が不安定な例の1つであることを象徴している。

ペルーの不安定な民主政治や1992年に起きた立憲体制の断絶の原因を探るため、1990年代に入ると様々な形で民政移管以降の政治過程が分析された。そこでは、民主政治を支えるべき政党が機能不全に陥ったことが原因として指摘された*2。

しかし同時に、重要な要因として分析されるべき点は、下層民の行動と意識である。この点は、民政移管以降の政治過程をめぐる1990年代の議論において本格的に論じられることはなかった。選挙分析の中で下層民の投票行動が研究された例は過去を含め

* 1 本稿では、農民自警団など少数の例を除き地方や農村の下層民について言及されない。これは、本稿がレビューする1980年代以降の研究が、リマなど都市の下層民を主に対象としているためである。ペルーは歴史的に中央集権性が強く、リマに研究者が集中しており、研究を実施する容易さから、また、1970年代初めに都市人口が全体の過半数を超えたこと (93年のセンサスでは70.1パーセント) から、都市下層民を対象にした研究が多い。学問研究でも中央集権性が存在するのだが、この点は既存研究の限界の1つである。

存在する [Cameron 1994; Dietz y Dugan 1996; Schmidt 1996; Tuesta Soldevilla 1985; 1989; 1991]。だが、これらは下層民による投票以外の政治行動や政治意識にまで踏み込んだ分析ではない。

下層民の政治行動が重要なのは、ペルーでは、歴史的に非識字者に参政権が付与されず、1979年まで識字力を持たない下層民が公式に政治から排除されていたためである。有権者数が成人人口の過半数を上回るのは1970年代末からで [村上 1994: 54]、この時まで参政権は少数の成人に限られていた。そこで、80年の民政移管後、それまでは排除されていた下層民をどう政治過程へ統合するかが重要な政治課題となった [Cotler Dolberg 1968: 180-184; 1980]。

下層民の政治行動については、1980年代以降、ペルー全体の政治過程とは別の2つの角度から論じられてきた。社会運動・社会アクター (actores sociales) と政治意識という視点である。前者の視点からは、住民、女性、農民など何らかの社会的属性によるつながりを通じ共通の目的を達成することをめざす諸活動が研究された。また、政治意識は、研究対象を特定の社会集団やアクターに限定せず、政治をめぐる下層民一般の関心や考え方、態度、行動様式などを対象とする。社会運動・社会アクターは主に80年代に盛んに研究され、政治意識は

少数ながら最近、研究例が見られるようになった。本稿ではこれらの研究を検討する。

1980年代に研究者が社会運動や社会アクターに注目した理由は、第I章で述べるが、70年代から80年代半ばに、社会運動が活発化してこれに支持された左翼勢力が政治的に伸長したこと、およびインフォーマル・セクターが拡大したことである。これらの現象は伝統的な政治が変化した現れであると考えられたのだった。

伝統的なペルー政治はパトロン・クライアント関係 (以下、PC 関係と略) に基づいて構築された。下層民もこの関係に取り込まれた。PC 関係とは、カウディージョ (caudillo, 統領ないしボス) など上位の政治的有力者が、財、サービス、保護などの価値を恩情として提供し、これを受益する下位の個人や集団がその有力者に忠誠や支持などを提供し服従する関係である。PC 関係では、意思や政策の形成・決定は、上位の有力者やこれを中心とする少数の集団が行う。意思決定の過程へ参加する個人や集団の数が少数に限られるという意味では、PC 関係による政治は権威主義的である。同時に、下位の個人や集団は、上位の者と縦の繋がりはあっても、相互間の横の繋がりを欠き、いわば「底辺のない三角形」の状態となる [Collier 1978; Cotler Dolberg 1968; 1978: 73ss; Stokes 1995:

* 2 民主政治のため、通常、政党には次の役割が期待される。(a)国民の利益を集約する、(b)国民と政府との間の仲立ちをする、(c)政策提言を基に議論を展開し合意を形成する、(d)一般市民に対する政治的な教育を行い政治への関心と能動的な参加を促す、などである。だが、ペルーの政党は家父長的、硬直的な内部構造を持ち、党利党略のみに縛られ相互に敵対するだけで、前記の諸機能を果たせなかった。深刻な危機状況に対する有効な政策を何ら打ち出すこともできず、ペルーの国民は政党への信頼と支持を失い、民主政治にも失望した [Cameron 1994; Cameron and Mauceri, eds. 1997; Cotler Dolberg 1994: 165-235; López Jiménez 1991: 65-167, 209-238; Tuesta Soldevilla, ed. 1996]。

16-31]。

1980年代に入ると、下層民は伝統的なPC 関係から脱し、民主的な政治関係を構築していると主張する研究が現れた（民主的性格を肯定していることから、以下、この立場を肯定説と呼ぶ）。肯定説は80年代半ばまでは支配的な見方で、社会主義社会の建設をめざす革新的な研究者は社会運動を、市場経済に基づく資本主義社会を理想とする自由主義的な研究者はインフォーマル・セクターを各々取り上げて論じた。また、肯定説の一部の論者は、下層民レベルの民主的な政治と国家レベルでの民主政治の不安定性の間には断絶があると指摘し、下層民レベルと国家レベルが分離した二重構造（dualismo）としてペルーの政治社会を捉えた [Matos Mar 1984: 80, 103-105; Ballón Echegaray 1986b: 11]。肯定説は、この断絶の原因が前述のような非民主的な政党にあると考える。

1980年代半ば以降には、肯定説が目した現象の事例研究から、下層民の民主的性格に懐疑的な研究が現れた（以下、この立場を懐疑説と呼ぶ）。この見方は、下層民の政治行動の性格は明確には民主的ではなく、伝統的、権威主義的な要素もあり、非一貫的、曖昧であるとする。またこの懐疑説と並行して、それまでの特定の地域や組織、集団に関する事例研究に基づいた立論ではなく、統計的な手法を使って下層民の政治意識をマクロ・レベルから分析する研究も提出されてきた。このマクロ分析には、

懐疑説を支持する研究も見られる。

1980年代以降、このように下層民による政治行動の性格をめぐる対立する見解が提出されてきたが、果たして、下層民の政治行動は民主的なのか。民主的であれば、どういう意味で、またどの程度まで民主的なのか。民主的な行動は一部の下層民に限られるのか、あるいは多くの下層民が共有するのか。肯定説がいうように、政党の機能不全のみがペルーの民主政治の問題なのか。それとも、懐疑説のように、完全には民主的でない下層民の政治行動や政治意識の中に、民主政治の定着を阻害する要素も混在するのか [Ballón Echegaray 1990: 37-38; Degregori Caso, *et al.* 1986: 20-26; Pásara Pazos, *et al.* 1991: 3-4]。

こうした点を考えることは、政治制度、つまりある社会の成員の間で政治について了解、共有される行動定型や規範 [篠原・永井 1965: 7-12] について考えることである。焦点となるのは、指導者・代表の選出やその責任の追及、意思決定などの過程に関し、下層民の間でどのような規範やルール、行動定型が了解、共有され、存在するかである。具体的には、従来の権威主義的關係が存続し、有力者や上位少数グループが意思決定するのか。あるいは、特定の集団で指導者や代表が公正な選挙により選出されるとともに、その集団を構成する下層民が意思決定過程へ自由に加わることが保証され、かつ民主的な意思決定が実践されているのか*3。以上の問いに答えること

* 3 本稿で民主主義とは、このように、ある集団の代表の選出や意思決定の過程へその集団の成員が自由に参加することが慣行やルールとして定着し、保証されていることを意味する。民主主義には経済的社会的な平等を含めて広く定義する場合もあるが、本稿は狭く政治的な手続きや過程の点に限定して捉える。それは、以下で検討するように、この点をめぐり意見の対立があるからである。

は、不安定なペルーの民主政治を分析し、かつ、ペルーで民主政治が今後定着する可能性を考えるためにも不可欠な作業である。

以下では、1980年代以降の研究の主な論点や特徴を整理し、どのような論拠から下層民の政治行動を論じているのかを検討する。第I章では社会運動や社会アクターを対象とした研究を取り上げる。最初に下層民の台頭過程を概説した後、肯定説と懐疑説を対比させつつ紹介する。ここでは、研究蓄積の多い3つの事例（住民運動、民衆食堂、統一左翼の地方政府による民主的政治参加の実験）について、両説の主張を具体的に比較する。なお、肯定説には、革新的な立場と自由主義的な立場からの2種類の研究があるが、前者の研究がほとんどであることから、自由主義的な立場の研究への言及は最小限にとどめる。続く第II章では、代表的な2つの政治意識に関する研究を中心に、統計的な手法を使った研究を検討する*4。

I. 社会運動・社会アクターからのアプローチ

1. 下層民の台頭

ペルーでは、19世紀終わりに砂糖、綿花、鉱産物などの第一次産品輸出が発展して以

来、人口の構成や国内分布、経済構造、情報・通信・運輸事情の変化など、伝統社会の構造的変動が始まり、1950年代以降加速した。この社会変動の過程で下層民の政治活動も起こり、労働運動や農民運動が発生した。また、農村から都市へ移住した下層民は、住居建設のための不法な土地占拠や住環境の整備・改善を目的とした住民運動 (movimientos vecinales, movimientos de pobladores) を始めた。だが、60年代までは、労働運動、農民運動、都市下層民の住民運動など下層民の社会運動は、特定の政治家や政党が形成する PC 関係の中にあつた*5。

1968年には革新的なベラスコ (Juan Velasco Alvarado) 軍事政権が発足した。ベラスコ政権は農地改革や産業の国有化などを断行する一方、下層民全体に対して自主的な政治参加を奨励し、そのための意識化を図った。73年からの経済悪化や、75年の軍事政権からの改革派追放と自由主義経済路線への転換を契機に、下層民は軍政に反対する運動を展開し始め、80年の民政移管への道を開いた。この中心となったのが、労働運動、住民運動、そして中央に対し地方の要求を主張した地域運動 (movimientos regionales) だった [Lynch Gamero 1992;

* 4 本稿は社会運動に言及するが、社会運動自体の研究ではなく、その政治的な側面、集団における選挙や意志決定の過程に関するものである。社会運動をめぐる他の問題、例えばその組織的、機能的な側面や、経済的、文化的な点、あるいはジェンダー、NGO など外部組織との関係などの問題は扱われない。社会運動については、Calderón Gutiérrez [1995], Calderón Gutiérrez y Dos Santos, comps. [1987], Camacho y Menjivar, coords. [1989], Escobar y Alvarez, eds. [1992], Foweraker [1995], McAdam, *et al.*, eds. [1996], 大串 [1995], Slater, ed. [1985]などを参照。また、本稿は肯定説と懐疑説の相違を明確にするため、様々な研究の持つ微妙な差異を無視して議論を単純化している。例えば、下層民の民主的行動が様々な外的制約要因に直面しているという留保をつけていても、最終的に下層民の組織や活動の民主的性格に懐疑的でない場合は、肯定的な見方に含めてある。

* 5 こうした経緯については、Balbi Scarneo [1989], Collier [1978], Dietz [1986], Driant [1991], Franco Cortéz [1991], Iziga Núñez [1993], 中川ほか [1985: 58-108, 172-188], 遅野井 [1995: 12-50], Stokes [1995: 16-31]などを参照。

大串 1995: 7]。

民政移管後、1980年代半ばまでに労働運動、住民運動、地域運動は停滞ないし弱体化した*6。代わって活発化したのは、80年代に深刻化した経済社会問題を緩和し生存を図る目的で下層民が展開した組織的諸活動だった。

顕著なものとして、まず、女性による組織的活動がある。これは、保健・厚生、職業訓練など様々な問題に関する組織を含むが、最も数が多く一般的なのは民衆食堂 (comedor popular) である*7。民衆食堂は、材料の仕入れや調理を共同作業で行い、メンバーや一般人に食事を安価で提供する組織で、数十名の女性により構成され、キリスト教会関係団体などの NGO や政府、外国からの支援を受ける。

同じく著しく広がったものに、農民自警団 (ronda campesina) がある。これは当初、家畜泥棒に対する自衛手段として結成されたが、次第に機能を拡大し、司法権に代わる刑罰の実施、農民間の係争の仲裁・

調停、インフラ事業の実施、要求活動の実施、テロ対策など、様々な役割を果たすようになった。

住民運動、民衆食堂、農民自警団などを展開した下層民の支持を集め、1980年代の地方選挙で躍進したのが統一左翼 (Izquierda Unida) だった。統一左翼は、それまで小党分裂を繰り返していた社会主義系と共産主義系の諸政党が80年の地方選挙を前に結成した連合組織で、下層民の民主的政治参加を公約し、地方政府レベルでこれを実現しようと様々な試みを行った。首都リマでも1983年から3年間、統一左翼のバランテス (Alfonso Barrantes Lingán) 市長が市政を担当した*8。

社会運動が活発化する一方、1970年代以降の経済危機を背景に、インフォーマル・セクターが拡大した。これは、下層民が生存のために法律に則らない形で行う経済活動である。80年代半ばには、インフォーマル経済に従事する者は経済活動人口の48パーセントを占め、その生産高は国内総生産

* 6 労働運動の弱体化は、1970年代以降の経済の悪化でインフォーマル経済が拡大したことによる。契約によらない雇用が主流となり、親族や知人のつながりなどの第一次接触集団を駆使して生存を図る労働者が増え、労働組合は彼らの要求を取り込めなかった。住民運動は、(a)住環境の要求が満たされる地区が現れた、(b)80年から選挙で選ばれるようになった地方政府 (municipalidades) が住民運動の要求表出機能を果たし、そのダイナミズムに吸収された、(c)経済の悪化による生活の困窮化の中で生存を図る事態に住民組織が対応しなかった、などから停滞した。地域運動の場合は、これが中央に対して利害が一致した地方の企業家や商工業者と労働者など下層民との間の協調行動であり、時間とともに内部の不統一が表面化したために衰えた [Balbi Scarneo y Gamero 1990; Ballón Echeagaray 1986a: 21-35; 1986b: 237-249; 1989: 324-327; Chávez O'Brien 1990a: 111, 113; Degregori Caso, *et al.* 1986: 120-132; Henríquez 1986: 199-205; Nieto Montesinos 1986; 大串 1995: 29-40; Parodi 1986a; Rénique 1986: 204-208; Tovar Samanez 1986a: 80-85; 1986b: 144-151]。

* 7 「一杯のミルク委員会」と呼ばれる組織も拡大したが、これは統一左翼の地方政府が始めたものである。本章第5節参照。

* 8 リマにある民衆食堂は1980年172、1985年884、1990年3259と急速に増加した。1996年には、ペルー全人口の約5パーセント、リマの全人口の約7パーセントが民衆食堂の受益者だった。また、農民自警団は1990年に3435団体が確認された。さらに、統一左翼は、83年の地方選挙では、ペルーの郡 (provincia、2番目に大きい地方行政単位) 全体の20パーセントの郡で郡長を誕生させ、区レベルでも多数の首長を輩出した [Ballón Aguirre 1987; Blondet Montero y Montero 1995: 32-36, 53-68; Degregori, *et al.* 1996; Espinosa de Rivero 1995; 村上 1994: 46; 大串 1995: 31-32, 56-59; Starn 1991: 11-16; Webb Duarte y Fernández Baca, eds. 1997: 359]。

の38.9パーセントに達するなど、経済社会の様々な側面でインフォーマル化が進行した*9。

2. 下層民による政治行動の性格

1970年代後半から顕著となった社会運動やインフォーマル・セクターに着目して、下層民の民主的性格をめぐる肯定説と懐疑説が提起された。肯定説には、革新的な立場と自由主義的な立場の2種類の研究がある。

革新的な立場からの肯定説*10によれば、1970年代半ば以降に活発化した住民運動、女性による生存のための組織的活動、地域運動、農民自警団などの社会運動は、従来のPC関係に基づく権威主義的支配を離れ、民主的な新しい社会関係を作り出している。そして、今や新しい民主的な関係に基づいた「新秩序」(un nuevo orden)の形成が進んでいるという。

この立場は、日常的な要求を動機として下層民が組織する活動や運動を、資本主義の限界に不満な下層民が資本主義社会を克服しようとする自発的努力と捉える。こう

した中で、下層民は「新しい社会慣行」(nuevas prácticas sociales)や「政治の新しい方法」(nuevas formas de hacer política)を編み出していると論ずる。

革新的な肯定説は、「新しい社会慣行」や「政治の新しい方法」について、次の3つの特徴を分類型化している。まず、1960年代までの社会運動と異なり、草の根組織(organizaciones de base)を数多く形成している。そして草の根組織では、個人的(individualista)ではなく、集団全体として困難を克服しようとしている。第2に、草の根組織は、成員の連帯(solidaridad)や互恵ないし相互扶助(reciprocidad)に支えられ、参加型の民主的形態となっている*11。成員の間では権利、義務が平等である。また、草の根組織が自主的に集まって結成した連合組織も民主的である。そして第3に、NGOや既存の社会運動など他の組織から様々な形の支援を受けながらも、草の根組織は自主性(autonomía)を保持している。

社会運動という集団的活動ではなく、インフォーマル・セクターを支える個人的イ

*9 1982年には、リマの住宅の42.6パーセントが不法占拠された土地にあり、ここにリマの全人口の47パーセントが住んでいた。リマのバスや乗合タクシーなど旅客輸送サービス用の車両の93パーセント、その輸送能力の74パーセントがインフォーマルであった [De Soto Polar 1986: 3-14]。

*10 革新的な肯定説については、Ames Cobián [1985], Ames Cobián y Nieto Montesinos [1987], Ballón Echegaray [1986b: 231-233; 1989: 329-334], Ballón Echegaray, ed. [1986: 11], Barrig [1986: 147], Blondet Montero [1993], Frías [1984], Frías y Romero [1985], Matos Mar [1984; 1991], Pease García [1981: 449-454], Pease García, et al. [1981: 337-338], Stein y Monge Salgado [1988: 124-144], Tovar Samanez [1986a: 101] などに基づく。

*11 連帯や相互扶助に基づく集団的努力の起源を先住民の伝統に帰すのが一般的である [Adams y Valdivia 1991; Fernández Galvez y Aguirre Fernández 1995; Golte 1995; Golte y Adams 1987; Lobo 1984; Rodríguez Doig 1994; Tovar Samanez y Zapata 1990]。この伝統的要素を強調して社会「新秩序」の形成を唱える立場もある [Matos Mar 1984]。だが、アンデスの先住民文化がなかった他の国の貧困地域でも、連帯や相互扶助が見られることも事実であり [Ríofrío 1990: 76-77]、また、先住民の伝統の変容の有無についても分析されるべきである [Grompone 1991b]。さらに、アンデス高地を知らない、都市生まれの若い世代がその価値観を自然に共有するとは限らない可能性もある [Golte y Adams 1987: 54-61; Pásara Pazos 1991: 22]。実際、若い世代が民衆食堂に参加しない理由の1つをこの点に求める説もある [Schwappe 1993: 186-187]。

ニシアティブを重視し、自由主義的な肯定説を展開したのはデ・ソトである。

デ・ソトによれば、地方から都市に移住した下層民は、住居や雇用などの点でその需要を満たす供給を見出せなかった。国家から十分な支援を得なかった下層民は自らのイニシアティブで住民組織を作り、土地を不法占拠して住宅を建設し、その土地の所有権を獲得するため政府と対立ないし交渉した。また、法律に則った経済活動に従事することができなかつた下層民はその個人的努力により、零細な行商や露天商、家内工業、輸送業などを始め、同業者が互助組織を結成し発展へ向け尽力した。こうしてインフォーマル経済は拡大した。

デ・ソトは、こうした個人的なイニシアティブを企業家精神として高く評価した。そして、国家の介入と保護を排して経済を自由化し、インフォーマル経済に見出される企業家精神を基盤として経済発展を目指すべきであると提案した。

同時にデ・ソトは、インフォーマル・セクターの互助組織が民主的に運営され、伝統的な構造の変革と新たな制度の創出を率先して実践しており、「すべてのペルー人

を包摂する異なった秩序 (un orden distinto) の基礎を据えることができる」と分析した [De Soto Polar 1986: 13, 297, 311]。デ・ソトは、下層民の民主的組織による営為を通じ「新秩序」が形成されると論じた革新的な立場と同じ捉え方をしたのである [Pásara Pazos 1991: 14]*12。

以上の肯定説に対し、下層民による政治行動の民主的性格に疑問を呈したのが懐疑説である*13。

懐疑説によれば、第1に、下層民組織内の関係は、明確に民主的といえず、むしろ一般的には曖昧で、矛盾した状態である。指導者を選出する過程は民主的な場合があり、民主的な参加が萌芽的または限定的に見られる場合もある。その反面、指導者とメンバーの間に PC 関係や権威主義的關係が観察される場合も少なくない。

懐疑説は権利と義務の関係も曖昧だと考える。両者が混同されたり、組織の内規で義務の方が多く規定される場合がある。権利と義務の適用が不平等な場合も見られる。また、指導者がメンバーの権利を正確に知らない例も多い*14。

第2に、懐疑説は、指導者が組織全体の

*12 デ・ソトは、不法占拠地における住民組織、当局による排除から身を守るための露天商の防衛組織、旅客輸送サービス業者の組織を各々分析し、指導者の選出や意思決定の過程の点でどれも民主的であるとす。ただし、懐疑説と似た指摘も一部に行っている。例えば、住民組織について、住民は住環境の改善・向上の要求を実現する能力の期待度によって指導者を評価しており、この期待にそえない指導者は住民により交代させられるとしている。露天商の防衛組織とその連合組織も防衛の必要に応じ活動の度合いが変わるといふ [De Soto Polar 1986: 27-51, 75-77, 109-117]。なお、革新的な肯定説の立場から零細企業家の連帯や組織に注目した研究は、Andrade y Cordano [1987], Távara [1994] などを除き、あまりない。懐疑説からの研究は Valdeavellano [1991] を、また、零細企業家組織一般については Grompone [1985: 213-231; 1990] を参照。

*13 懐疑説については、Frtas [1989: 9-10, 18-21, 30-34], Grompone [1991 a: 198-202], Pásara Pazos y Zarzar [1991: 178-181, 187, 190-196, 199-202], Tovar Mendoza [1996: 191-192] などによる。

*14 ある地区の調査によれば、住民組織や民衆食堂などの民衆運動の指導者のうち、61.4パーセントはメンバーの権利を1つも正確にあげることができなかつた [Pásara Pazos y Zarzar 1991: 178; Tovar Mendoza 1996: 170-171]。

代表ではなく、カウディージョ的リーダー (jefe caudillesco) であると分析する。つまり、特定の具体的な問題を克服するため、外界の有力者や有力な勢力と関係 (enlace) を結び、外から支援や助力を得るための仲介者 (intermediario) としての役割を期待されている。指導者としての正統性の根源は、外的関係を通じ問題を克服する力量や効率性にあるという。

懐疑説によれば、一般のメンバーは、問題が克服されるのであれば、指導者が民主的な手続きを経ずに決定してもこれを受入れる。指導者も当局など外部勢力との関係を樹立することに最大の関心を持ち、政策や代替案を提案することは二次的である。そして、問題克服の効率性や期待の度合いに応じ、当局などと激しく対立したり、あるいはデモや交渉を行ったりと、活動の手段を選択する。

第3に、懐疑説は、一般メンバーが組織過程への参加自体にあまり関心はないと論ずる。参加する場合は、各人が直面する問題が参加により克服される可能性に関心を向ける。一般メンバーは組織を便宜的に捉えているのであり、社会全体や国家の将来などを見据えながら、中長期的な目標や計画を考え、話し合うことはまずない。また、

組織に参加する者は下層民全体の中で少数派である。しかも、1990年半ばに行われた調査によれば、上層や中間層よりも下層の方が組織的活動に参加すると答えた者の割合の方が少ない*15。

第4に、懐疑説によれば、草の根組織は、同じ目的や関心を持つ組織の間でも、1つにまとまる求心力がない。草の根組織では、利益を集約する連合組織を結成する自発的意志は弱い。連合組織の結成は通常、外部の勢力が主導する。従って、連合組織の民主的性格は草の根組織以上に曖昧であるという。

同時に懐疑説は、ある特定の限定された当面の目標や必要のために組織や運動が作られる専門化 (especialización) を指摘する。別の目的や関心を持つ組織間では、協力関係が制度化されないと*16。指導者は他の組織との協力関係の構築を目指すとして主張するが、実際にはそのために活動していないとされる。

懐疑説の中には、小さな空間での限定された問題設定という条件の下で民主的な政治参加が観察されると考える研究者がいる。つまり、住環境の整備、生存のための食事の供給など、問題が下層民の生活上の必要性に直接関係し、具体的かつ比較的単純で

*15 1990年半ばにペルーの世論調査会社アポージョがリマ在住の有権者を対象に行った調査では、何の組織にも属していない者は、上層は4人に1人、中間層は2人に1人、下層では4人に3人である [Pásara Pazos y Zarzar 1991: 193]。リマのある下層民居住地区の女性を1984年に調査したある肯定説の研究も、67.1パーセントの女性が何の組織にも属していないと報告した [Grandón G. 1990: 117]。ただ、この研究者はこの結果に関心を払わなかった。

*16 この専門化の背景の1つに、下層民が状況に合わせて問題を1つ1つ解決しようとする指向がある [Fritas 1989: 19]。これはクリオージョ (Criollo) 文化の行動様式の1つである。クリオージョとはペルー生まれの白人を意味し、土着の白人の間に醸成され、下層民にまで共有されるようになったのがクリオージョ文化である。この一般的行動様式は、大胆さ、攻撃性、慎重さなど様々な方法・手段を状況に応じて使い分け、状況の各場面で最大限の利得を確保しようとする。これはフジモリの指向や行動にも影響を与えていると考えられている [Jochamowitz 1993: 104-105; 遅野井 1995: 21-24; Panfichi y Francis 1993: 237]。

限定されているため、その克服の方法もあまり複雑でないことから、多様な利害が絡んで大きな政治的争点となるような他の問題と比べればまだ民主的に合意しやすいという [Comisión Habitat s.f.: 219-221; Dieringer 1987: 119; Frías 1989: 10; Tovar Mendoza 1996: 113-114]。

次に、住民運動、民衆食堂、統一左翼による民主的政治参加の実験について、肯定説と懐疑説による分析の概略を紹介する*17。

3. 住民運動

肯定説によると、下層民居住地区の住民運動は、革新的軍事政権の下で伝統的なPC 関係を脱し民主的な組織となった。一定の地域単位毎に選挙で代表を選出する方式を取り入れたのである。そして前述のよ

うに、1973年以降、軍事政権からの自律性を高め、土地所有権の獲得、住居の確保、都市インフラ整備などを柱とする要求活動を展開し、連合組織の結成を進めた。

肯定説は、この組織的な行動と展開を政治参加の契機として重視する。この経験の中で、まず、「住民」(vecino)としてのアイデンティティや連帯感が培われたという。同時に組織化や連合化を通じ、単に自分達の住む区画 (manzana) や地区 (barrio) に関する利害から、より広い地域に対しても関心を抱くようになった。そして「住民」は下層民全体に関する問題についても活動を始め、労働運動など他の運動との協調行動や、社会福祉政策に関する要求活動などを行った例もあると指摘する*18。

住民組織の形態は地域により多少異なるが、基本的には、区画毎および一定の地区

*17 他の運動に関し、地域運動については肯定説のみで、Ballón Echegaray [1986b: 247-249], Réniqne [1986, 1991] がある。農民自警団については、肯定説からは、Gitlitz and Rojas [1983], Huber [1995], Starn [1991], Vargas Tarrillo [1987], Pérez Mundaca [1997: 201-223] など、懐疑説からは、Apel [1996], Degregori Caso [1989], Zarzar [1991] などがある。女性の意志決定への参加が地方で少ないことを指摘した研究もある [Harvey 1989; Francke 1996; Zevallos Aguilar, comp. 1994]。

また、連合組織は結成されなかったが、若者が小さな地区組織を形成して文化を中心に様々な活動を行う現象が一時、活発化した。これを肯定説から捉えたものに、Tejada Gamarra [1990] がある。若者については、最近、政治的無関心 [Grompone 1991 a: 25-70; Tanaka 1995: 159-160] と、分散化、個別化の傾向が指摘される [Cáñepa Garcta, ed. 1993; Carrión 1991; Gonzales, et al. 1991; González, et al. 1995; Pineda Blanco, et al. 1993]。若者をめぐっては、肯定説の中でも批判的に見る例があった [Degregori Caso, et al. 1986: 259]。

なお、農民自警団が様々な機能を獲得して行くことについて、初期の目標を達した後に衰える他の社会運動とは異なるとの見方もある [Huber 1995: 122-123]。だが、農民自警団はブルー社会を本格的に変える力を未だ持たないことは認めざるをえないだろう [Frías 1989: 21]。

*18 住民運動に関する肯定説は、Ballón Echegaray [1986a: 25-27; 1986b: 240-244], López Jiménez [1994], Olivera Cárdenas [1994], Tovar Samanez [1986a: 77-119; 1986b: 138-144, 150-155] などによる。

デ・ソトもこの肯定説と同様の指摘をしているが、デ・ソトが所長を務める研究所の報告 [Forsyth 1989] によれば、区画総会は1週間に1度の割合で、また、地区総会は1週間から1ヶ月の間に1度の割合で、各々開催される (区画総会、地区総会については次頁参照)。審議は、まず住民から自由になされた発議が地区総会で討議される。その中で、過半数以上の賛成で可決された案は地区総会で選出された専門委員会に送付され、ここで具体的計画が作成される。この計画は各区画総会で討議・決定される。そして、その結論を基に地域総会は計画を最終的に承認ないし否決する。ただ、地域総会の決定は、区画総会の決定を追認する傾向が強いとされる。さらに、住民は、区画と地区両レベルの執行部の会計面を含む全ての情報へのアクセス権や、執行部のメンバーを更迭する権利を持つ。地区執行部の10~15名のメンバーのうち、平均すれば、任期途中で1~2名のメンバーが更迭されているという。

レベルで、住民が参加する総会 (asamblea) が開催される。総会では、各レベルの執行部 (directiva) や各種委員会などが選出され、住環境をめぐる議論や意思決定が行われる。具体的な議題は、(a)土地の取得・区画分け、(b)上下水道や電気など生活関連インフラの整備についての提案や、複数の案件の間での優先順位の決定、(c)インフラ整備の個別的計画の作成、などである。

肯定説は、こうした住民組織の活動を、住民参加により住民の意思が反映される民主的な過程であると捉える。その例として、エル・アグスティーノ、アテ・ビタルテ、ビジャ・エル・サルバドルなどのリマの各区、およびペルー南部の都市イカやイロなどにおける下層民居住地区をあげる (区 [distrito] は最小地方行政単位) [Comisión Habitat s.f.; Palacios 1984: 128; Quispe De la Torre 1989: 61-125; Serrano 1987: 234-239]。

肯定説は、住民運動が幾つかの問題に直面し、1980年代初め以降、活動を低下させたことを認めている。その問題として、(a)「住民」としてのアイデンティティの弱まり、(b)住民運動が全体的にはまとまりを欠き、分散し原子化 (atomización) する傾向、(c)伝統的な権威主義的關係の残存、(d)政党など既存の政治勢力が住民組織の民主的な「政治の新しい方法」を取り入れない限界、などをあげる。

しかし肯定説は、組織的に行動する住民運動は、矛盾をはらみつつも、「新秩序」

へ向かって弁証法的 (dialéctico) に前進していると論ずる。それは、旧制度から新制度への移行は単線的には進行せず、変化する要因や変化の経験が歴史過程の中で質的に蓄積されることから起こるためであるという [Ballón Echegaray 1986b: 240-244; Tovar Samanez 1986a: 104, 119]。

これまで述べてきた肯定説に対し、懐疑説は肯定説が軽度の問題とした点を重視する*19。懐疑説によれば、住民組織はカウデージョ支配の垂直的關係から成る。連合組織を結成しても同様で、その基盤は脆弱である。

懐疑説は、指導者とメンバーの結びつきが弱く、一体感を共有していないと考える。指導者は、合意形成よりも、メンバーの統制から離れて行動し外部との関係や情報を独占する傾向の方が強いとする。リマのエル・アグスティーノ区のある地区が土地所有の合法化手続きを行った際、選挙で選ばれたある指導者は、住民への報告もなく秘密裏にこれを進めた。この指導者はその後、再選されたという。

また、懐疑説によれば、メンバーが指導者に期待するのは、外部の有力な人物や組織、勢力と関係を樹立し、住環境の問題を克服することである。問題の克服を指導者に委任しており、問題克服の期待によって指導者の選出や更迭が行われる。この選出や更迭は有力な人物や勢力の政治的主義主張とはまず関係なく、問題の効率的な克服という尺度からメンバーが判断する。こうして、比較的短期間のうちに権威主義的な

* 19 住民運動に関する懐疑説は、Barrig, *et al.* [1987: 60], Frías [1989: 22], Grompone [1991a: 109-110], Larrea O. [1989: 19, 42-43, 75-93], Tovar Mendoza [1996: 107-112] などによる。

指導者が交代することが一般的に見られるとされる。

指導者への期待と関連して、懐疑説は、リマのビジャ・エル・サルバドル区とサン・フアン・デ・ルリガンチョ区を例に、住環境の向上・改善が達成された後にメンバーが組織への関心を失い、組織活動が低下したことを報告している*20。それによると、ある2つの地区では、住宅建設と水道敷設のため、各々の住民組織が動員をかけ当局に対し積極的に働きかけた。いざ工事が始まると住民は急速に関心を失い、住民組織の動員の呼びかけに応じなくなった。だが、工事の完成が危ぶまれたり、進捗が滞ったりすると、住民の参加を得て再度、住民運動は活気を取り戻し、積極的に当局への働きかけを行ったという [Zapata Velasco 1996: 143-144; Zolezzi 1984: 87-88, 93; Zolezzi y Calderón Cockburn 1985: 62-63, 105-113]。

さらに、懐疑説は、地区組織の指導者を選出する選挙で、激しい対立や暴力事件が起きる場合があることも指摘している。そして選挙終了後に新執行部がスタートしても、選挙で敗れた側は建設的でなく非妥協的な反対勢力となって、組織を不安定化させることがあるという。また、地区総会がいすや石を投げ合って騒然とするケースも

観察されている。

4. 民衆食堂

民衆食堂には政府や政権党、カトリック教会などが直接運営するものもあるが、肯定説は、下層民の女性により自主的に運営される自主管理的な (autogestionario) 民衆食堂に注目する。前者では PC 関係が存続しているが、自主管理的な民衆食堂では民主的に組織が運営されていると考えるためである。

肯定説は、材料の仕入れから食事の提供までの一連の作業を平等に手分けし当番制で実施する経験の中で、民衆食堂の女性たちが「政治の新しい方法」を編み出し、「草の根民主主義」(democracia de raíz) を実践していると論ずる*21。具体的には、(a)話し合いに参加する、(b)合意した手続きやルールに従って指導者や代表を選出し、意志決定する、(c)責任や権限を委任する、(d)指導者や代表、活動などへの監査・監督を実施する、などが制度化されたという。

自主管理的な民衆食堂は、通常、メンバーの出席する総会とそこで定期的に出選される執行部を中核組織とする。肯定説は、前者を定期的開催される民主的な意志決定機関と捉え、また、執行部は、総会や総会以外に行うメンバーとの対話や照会を通

*20 肯定説の Degregori Caso, *et al.* [1986: 120-121] でも同じ指摘がある。

*21 民衆食堂に関する肯定説は、Backhaus [1988: 205-211], Ballón Echegaray [1986b: 247], Barnechea G. [1991: 42-101], Barrig [1986: 176-179], Barrig y Fort [1987: 113-123], Blondet Montero [1985; 1986: 3-4, 61-64; 1991: 15-17, 145-180; 1995: 117-118], Blondet Montero y Montero [1995: 62-79], Córdova Cayo, ed. [1992], Córdova Cayo y Luz Gorriti [1989: 48], Galer M. y Nuñez Carvallo, eds. [1989: 139-140, 242-246], Granados Mogrovejo [1996], Grandón G. ed. [1987: 20-46], Grandón G. [1990: 126-150], Guzmán Barcos [1990: 12-16], Guzmán Barcos y Pinzás Stoll [s.f.], Henríquez [1996], Huamán [1985; 1989: 146-153], López Jiménez [1994], Mauceri [1996: 108-111], Montes López [1987: 82-92; 1989: 242], Sara La Fosse Valderramea 1984: 24-36, 87-91; 1989: 193-212], Stein y Monge Salgado [1988: 131-134], Tocón Armas [1997], Villavicencio [1989: 272-274] などによる。

じて、意思疎通と合意形成に努めていると分析する。例えば、リマのエル・アグスティエーノ区のある民衆食堂では、総会において、食事についての抗議や議論が活発になされており、時には、激しく議論された末に、多数決で決定がなされた [Grandón G. ed. 1987: 36; Grandón G. 1990: 143]。同じくリマのビジャ・エル・サルバドル区では、貧困という共通の問題意識から始まって、選挙の実施や責任の委任、対話と合意などの経験が積み重ねられて、民衆食堂が設置され展開したという [Blondet Montero 1991: 105-121]。

また、肯定説によれば、民衆食堂へ参加する経験から相互の連帯感が培われ、下層民の女性としての一体感も共有された。内部で民主主義や連帯感、一体感が深まると、国や政党など外部の団体や組織からの干渉を嫌い、これを排除して自律性を求めるようになった。個々の民衆食堂は次第に連合組織 (la central) を結成するが、この結成過程や連合組織の運営も、選挙による代表の選出や総会などを通じた合意の形成などが見られ、民主的かつ自律的であるとされる*22。

同時に、民衆食堂やその連合組織の形成過程で、女性が自分たちの地区や食事を準備して提供する日常的な事項から、問題関

心をより広げる例があるという。リマのエル・アグスティエーノ区やサン・フアン・デ・ルリガンチョ区では、(a)住民組織と協議し居住区改善計画に参加する、(b)社会救済政策の実現を連合組織を通じて提案する、(c)抑圧や経済政策などの政治問題に関しデモを含む行動をとる、などの活動が観察された。バルネチエアによれば、民衆食堂に参加し視野を広げた女性は、既存の政治体制に批判的 (contestatario) となり、「新しい社会」(una nueva sociedad) を建設する担い手となった [Barnechea G. 1991: 93-101]。

ただ、肯定説は民衆食堂の一部が幾つかの問題を抱えていることも指摘している。民衆食堂の活動内部の問題として、まず、民衆食堂やその連合が全て民主的ではない。未だ権威主義的關係が残存している例も存在する。第2に、民衆食堂の総会へメンバーのほぼ全員が出席することが一般的でない例がある。第3に、指導者と一般メンバーの間で差が生ずる例が報告されている。政治的関心の面で、前者が政治的ないし党派の活動に関心を持つようになるのに対し、後者は日常的な活動に集中しているのである。また、権限が指導者に集中する例も存在する。

民衆食堂組織外の問題としては、第1に、

*22 民衆食堂に参加する女性が組織に愛着を感じていることを示す例として肯定説が引くものに、バックハウスとサラ・ラ・フォセの意識調査がある。将来、経済状況がよくなっても民衆食堂の活動は続けるか否かとの問いに対し、前者では75パーセント、後者では61パーセントが続けると答えた [Backhaus 1988: 97; Sara La Fosse Valderrama 1984: 83]。ただし、この2つの調査の限界については第II章第1節参照。

また、80年代半ばに政府が一時的に下層民のための雇用創出政策を行った際、リマ全体では25パーセントの民衆食堂が閉鎖となり、エル・アグスティエーノ区では、1つの民衆食堂あたりの平均の参加者がそれまでの50人から35人へ、つまり30パーセント低下したという [Córdova Cayo y Luz Gorriti 1989: 7; Montes López 1989: 251]。なお、肯定説でも Blondet Montero [1991: 145-176] は、ビジャ・エル・サルバドル区の連合組織が結局は制度化しなかったと報告している。

住民組織など他の社会運動との関係が緊密でない。他の社会運動や政党勢力の理解と協力も不十分で、民衆食堂の活動が孤立する傾向がある。第2に、民衆食堂では、政治や社会の全体を視野に入れて議論・提案し活動することが多くはない。女性たちがその関心や活動の範囲を広げているとはいえ、食事をめぐる活動や自分たちの地区での活動がやはり中心で、自閉的傾向 (*encapsulamiento*) が認められるのである。第3に、80年代の経済危機やテロの深刻化で、民衆食堂の女性は内向的、防御的となり、目の前の問題に関心を集中させている。家族を支えるため働かなければならず、民衆食堂の活動に参加する時間的余裕がなくなる者も出ているという。

こうした問題があっても、肯定説は、民衆食堂組織が「新しい社会」へ向けて前進していると捉える。それは、住民運動の場合と同じく、転換期では常に、前進と後退が入り交じる弁証法的過程が見られるからだとされる [Blondet Montero 1986: 62-64; Galer M. y Nuñez Carvallo, eds. 1989: 220; Grandón G. ed. 1987: 45-46]。

以上の肯定説に対し、懐疑説は民衆食堂の民主的性格に疑念を呈する。懐疑説が分析したりマのエル・アグスティーン区やサン・ファン・デ・ルリガンチョ区の例によれば、内部の意思決定は民主的ではない*23。

懐疑説によれば、総会で民主的に意思決定がなされると指導者が一様に行う発言は、

現実に合致しない。執行部の提案を「命令」としてメンバーが受けとり盲目的に「合意」する場合や、総会を経ずに執行部や指導者個人が決定することがある。また、指導者は、総会を経ない決定は緊急の場合だけ、ないしは民衆食堂の資金に関係のない場合であるとも発言する。だが現実には、政治目的の活動や組織の資金に関わることが、指導者だけによって決定される例も観察される。そして、総会では指導者は活発だが、一般のメンバーは消極的である。そもそも、一般メンバーは、食事の提供という直接的な目的以外の活動に消極的であるという。

懐疑説が観察した民衆食堂の指導者像は、「良きパトロン」(*buen patrón*) ならぬ「良き母」(*buena madre*) である。メンバーが指導者に期待するのは、外部との関係を樹立し、食事の提供という目的をめぐる様々な困難を迅速かつ効率的に克服することである。それが期待される限り、メンバーは指導者の指示に従い、他方、指導者が権限を自分に集中させ、その地位を長期間占めることも許容する。指導者とメンバーの関係は、後者の消極的、追従的姿勢に基づく権威主義的、垂直的關係である。そこでは、指導者の恣意性から、(a)指導者に都合のよいように内規を変更する、(b)当番を怠った者への罰則の適用を指導者の利害や人的関係により控えるまたは実施する、(c)援助物資を独占する、などの例も見られるという。

*23 民衆食堂に関する懐疑説は、Boggio, *et al.* [1990: 34, 41-42, 50-60, 74-82, 98-100], Chávez Pais [1997: 119-131], Delpino [1991: 43-51, 56-66], Flores [1989: 135-138], Grompone [1991a: 122, 137-138], Tovar Mendoza [1996: 121-128, 152] などによる。なお、肯定説の Degregori Caso, *et al.* [1986: 215] も、民衆食堂組織に PC 関係が見られるとしている。

また、権利と義務の配分が不平等な場合もあるとされる。新しいメンバーほど多くの仕事が割り当てられる。指導者が日常の仕事に携わる場合、通常、資金の管理や食事の分配など責任の重い役割を担う。当番制で役割を平等に分担する制度についても、時間が経つにつれ役割分担が一定のメンバーに固定され、役割分担が平等にならないケースも観察される。

指導者がメンバーの期待にそえない時は、指導者の交代をメンバーが発議する。ただ、懐疑説によれば、これは通常の刷新とならず、分裂の契機となる。指導者は辞任後に組織から追放されたり脱退し、新しい「母なる指導者」(dirigenta madre)による民衆食堂の「再建」が始まる。逆に、「反乱する娘達」(hijas rebeldes)が組織から追放され、新たな民衆食堂を設置することもあるという*24。

さらに、懐疑説は民衆食堂の連合組織についても否定的である。連合組織の結成は内部や草の根からではなく、NGOなど外部からの主導である。民衆食堂の各メンバーの連合組織への一体感は希薄で、メンバーは連合組織の存在を、支援物資を受け取るためという実用的な目的から捉える。日常の活動レベルで観察される連帯も、上位レベルの組織ではあまり見られない。連合組織と個々の民衆食堂の関係は民主的な例がないわけではないが、権威主義的な場合

が多いとされる。

民衆食堂と他の民衆運動との関係も、一部の例外を除き、疎遠であると懐疑説は述べる。例外的に緊密なのは、知人、血縁、地縁などの関係を通じ他の組織とつながる場合である。他の組織が民衆食堂に対し無理解や非協力的な姿勢を示すという問題もあるが、自律性を追求する意識が強過ぎて自己疎外 (automarginalización) や自閉的傾向 (encapsulamiento) を招いている面もあるという。

5. 統一左翼による民主的政治参加の実験

肯定説は、1980年以降にリマなどで統一左翼の地方政府が試みた民主的政治参加を、その実現への明確な政治的意志を持つ統一左翼が、民主的制度を培ってきた下層民とその組織に向けて実施したものと捉える。住民側に、政治指導者に期待するという従来までの受身の姿勢ではなく、草の根から参加する積極的な姿勢が存在したため、地方政府の意志決定過程に下層民とその組織が自律性を保ちながら関与することが可能となったという*25。

肯定説が民主的な参加形態としてあげるのは、区レベルでは公開議会 (cabildo abierto) や民衆集会 (asamblea popular) である。公開議会では、住民組織や民衆食堂などの民衆組織 (organización popu-

* 24 肯定説の中にはこの状態を擁護する者もいる [Lora 1996: 98]。だが、これは政党が繰り返してきた歴史的行動パターンで、ベルー政治を混乱に陥れた主要な原因の1つである [Cotler Dolberg 1988]。

* 25 統一左翼の実験に関する肯定説は、Chirinos S. [1986: 16-17; 1991: 101-126], Díaz Palacios [1990: 56-59], Pease García [1989: 82-94; 1991: 25-26], Rojas Julca [1989: 10-47] などによる。

lar) の代表が出席し、区政について報告を受け、また今後の方針を議論した。民衆集会は区当局が、民衆一般を対象に、情報伝達や意思疎通のために開催した。その他に、住環境整備を中央政府に要求する目的で区当局と民衆組織が構成する合同委員会 (Comisión Mixta) や、区当局が住民代表の要求を受けつけて解決策などを話し合うための恒常的協議機関などが設置されたことも、肯定説は民主的政治参加の試みとして積極的に評価する。

1983年から86年までの統一左翼によるリマ市政で肯定説が重視するのは、市当局内に設立された住民参加総局 (Oficina General de Participación Vecinal) である。これは民衆組織の活動を支援し市政への民主的参加を促進する責任を負った。また、リマ市が市民生活に関わる様々な整備改善計画を立案し実施する過程で、民主的政治参加が進められたことも強調される。この計画には、住宅建設を含む都市発展計画、清掃事業・消費者保護・食料支援などを行う社会サービス計画、文化・教育計画、都市交通計画、などがあった。インフォーマル経済対策として公道上の露天商 (ambulante) を統制する政令を策定した際には、露天商の代表と市当局が合同委員会を結成し、話し合いながら民主的に作業を進めたという。

統一左翼のリマ市政による事業で、肯定説が高く評価するものに、社会サービス計画の中の「一杯のミルク計画」(Pro-

grama del Vaso de Leche) がある。これは、0歳から3歳までの子供と妊婦、授乳期の母親に対し、毎日100万杯のミルクを配給する計画である。リマ市が粉ミルクを供給し、下層の女性が組織する「一杯のミルク委員会」がミルクを作って配給する。7500できた「一杯のミルク委員会」は、肯定説によれば、参加者により自律的かつ民主的に運営されている。

同時に、肯定説が統一左翼と関連して注目したのは、リマにあるビジャ・エル・サルバドルである。これは1970年代に入って作られた下層民居住地区で、73年からビジャ・エル・サルバドル自主管理共同体 (Comunidad Urbana Autogestionaria de Villa El Salvador, CUAVES) が住民の代表組織として機能してきた。

1983年、ビジャ・エル・サルバドルは区に昇格し、統一左翼の区長が誕生した。区政府は CUAVES との間で協力協定を結び、この中で区政の方針が承認され、また、区議会の委員会レベルに CUAVES の代表が参加する恒常的な協議機構が設置された。政策決定過程への民主的参加とともに、CUAVES が任命する民衆視察官 (inspectores populares) が置かれ、監視・監査のメカニズムも保証された。さらに、公開会議も開かれ、住民がお金を出し合いゴミ収集車や学校で必要な用具を購入することなどが決議された。こうしたビジャ・エル・サルバドルの経験を、肯定説は民主的参加のあり方を示す重要な例と捉える*26。

*26 ただし、これは革新的な肯定説の見方である。デ・ソトは、革新的な軍事政権が主導して作った CUAVES は下層民の自発的な組織ではなく、区制が施行されてから実質的に機能を失ったと捉える [De Soto Polar 1986: 27-51]。

以上のような政治参加の試みは地方の区でも見られ、肯定説はペルー中部のアンカシ県や南部のクスコ県における例などをあげる [Núñez Callirgos 1988: 21-36; Olivera Cárdenas, *et al.* 1991: 77-80]。

肯定説も、統一左翼による民主的政治参加の実験には、次のような一定の限界があったことを認めている。区レベルの経験については、公開会議や民衆集会が定期的かつ頻繁に開催されず、また、PC 関係と完全に無縁でなかった例もあった。リマ市政に関しては、意思決定過程への参加が一部でしか実現せず、しかも3年という短期間に限定された。全体的には、他の政党が政権に就いていた中央政府は統一左翼による試みを理解せず、住民参加の下で作成された計画や合意された要求などに対し財政的な支援や配慮をしなかった。そもそも地方政府による試み自体が、ペルー全体に対しては限界をなしていたとされる。

しかし、肯定説は、こうした限界にもかかわらず、また、目的を達しなかったにせよ、統一左翼の試みが、民主的政治参加を実践した点と参加という概念を一般化させた点で、社会変革に大きく寄与したと考える。それは、社会変革は直線的には進まないからであるという [Chirinos 1991: 120-123; Díaz Palacios 1990: 58-59; Pease García 1988: 94]。

民主主義への貢献を強調する肯定説に対し、懐疑説は、下層住民、統一左翼双方の

原因から後者による民主的参加の試みが頓挫したと論ずる*27。

懐疑説によれば、下層住民は、統一左翼の地方政府に対して次のような態度を示した。第1に、住民は自律性に基づく自治ではなく、目の前にある諸問題を解決することを要求した。住民は、差し迫った諸問題を克服する能力により政治家を評価する特性を持っている。第2に、問題の克服に際し、住民は直接かつ個別に当局と接触し、また当局が個別に関心を示すことを望んだ。住民は制度よりも、当局と個別的関係を樹立し要求の実現を図ろうとしたのである。第3に、住民は、受益という便宜的な理由から各種の組織を結成する用意はあったが、民主的参加を中核的価値として組織に参加することには熱心でなかった。

この現実を前に、統一左翼は、民主的参加を主張し続けたが、実際にはその試みを放棄したという。民主的参加の目標を棚上げして、前記の態度を示す住民との間に個別的な PC 関係を作り、内部の派閥争いに没頭していったのである。また、不定期に開催された公開議会や民衆集会などでは、具体的な議論はされず一般的な合意がなされるにとどまり、この合意も地方行政に無視される事態が生じた。さらに統一左翼は、民衆組織へ意思決定権を移譲するよりも、地方政府自体を強化することに力を注いだとされる。

こうして、統一左翼が用意した民主的政

*27 統一左翼の実験に関する懐疑説は、Allou [1989: 224-235], Barrig [1990: 184-186, 194], Calderón Cockburn y Olivera Cárdenas [1989: 61-66, 94-96, 125-129], Calderón Cockburn y Valdeavellano [1991: 31-182, 189-194], Delpino [1991: 49], Olivera Cárdenas, *et al.* [1991: 65-80, 147-149, 156-160], Parodi, ed. [1993: 142-145, 183-203], Pomar Ampuero [1997], Stokes [1995: 51-58], Tovar Mendoza [1996: 136-139], Zapata Velasco [1996: 196-224] などによる。

治参加のメカニズムは形骸化したと懷疑説は分析する。民主的参加の頓挫や形骸化の例として懷疑説は、アテ・ピタルテ、サン・マルティン・デ・ポーレス、サン・フアン・デ・ルリガンチョ、サン・フアン・デ・ミラフローレス、コマス、エル・アグスティエーノ、プエンテ・ピエドラなど、リマの各区での経験をあげる。

さらに懷疑説は、統一左翼のリマ市政や、民主的な政治参加の点で先進的とされたビジャ・エル・サルバドル区についても否定的である。

バランテス・リマ市長は、住民の自治や民主的参加を制度化することに熱心でなく、むしろ、日常的な要求に応えることで PC 関係を作りあげ、住民から個人的に支持を集めることを優先させたとされる。バラテンス自身、「政治的現実主義」(realismo político) に基づき行動することを主張した。つまり、左翼への支持票は、住民が左翼の政策を支持していることではなく、左翼に諸問題の克服を期待をしていることの現れであり、具体的成果を示すことで住民から支持を獲得し、維持できるというのである。

また懷疑説によれば、バランテス市長が始めた「一杯のミルク運動」で重要な役割りを果たした「一杯のミルク委員会」は、一部の例外を除き、決定や監査機能を持たず、実質的にはリマ当局の決定を執行する機関以上ではなかった。

統一左翼のビジャ・エル・サルバドル区長、アスクエタ (Michel Azcueta) もバ

ランテス同様、彼自身が住民の要求や問題を直接聞いて克服するカウディージョ的なスタイルをとったという。同時にアスクエタは、彼の派閥と異なる統一左翼内の派閥の影響下にあった CUAVES と次第に対立を深めたと懷疑説は指摘する*28。

6. 肯定説による事例研究の限界

これまで、草の根レベルの民主的性格を強調し、カウディージョを軸に組織が形成される伝統的な制度が変化していると分析した肯定説と、これに否定的な懷疑説を対比させて紹介してきた。肯定説は、幾つかの問題が一部にあるとは認識していたが、それらは草の根民主主義を否定するものではないと考えていた。

肯定説を主張した研究者の中には、「新秩序」の形成過程にあるとの見通しが楽観的過ぎたと後に振り返った者もいた。そして、社会運動内部の多様性を見落とし、共通のアイデンティティを有する1つの運動として研究者の側から規定したことが誤りだったと述べた。だが、この場合でも、草の根レベルでの民主的性格や連帯などに関する基本的な主張は踏襲された [Ballón Echegaray 1990: 22-43; 1992: 117-130]。また、民衆食堂の指導者やこれを支援する NGO の関係者が懷疑説を明確に否定し、肯定説の立場から内部の民主的性格を強調することは、最近でも見られる [Córdova Cayo 1996: 48-107; Lora 1996: 58-75]。

統計的手法による研究を検討する前に、こうした最近の研究を含め肯定説の限界を

*28 アスクエタ側の立場は Zapata Velasco [1996]、CUAVES の立場は Coronado del Valle y Pajuelo [1996] を参照。

1つ指摘しておきたい。それは、民主的な過程といいながら、内部の選挙や意思決定の過程について、具体的に記述する研究がないことである。この点は懐疑説によって克服されたわけではなく、懐疑説とて完璧な形で詳細かつ克明に記述してはいない。だが、肯定説に比すと、懐疑説は特定の争点をめぐる内部の意志決定過程をより具体的に紹介しながら立論するよう努めている。

肯定説が民主的な内部過程という場合、それは、組織やルールの規範的、公式的な側面に限定され、また声明文などの文書、指導者の発言やこれとのインタビューを主たる論拠としている。だが、その内容が現実の内部過程と一致するかについて、具体的な争点や選挙を軸に意志決定や選挙の過程を再構築しつつ検討していない [Boggio, *et al.* 1990: 14, 18, 30; Pásara Pazos 1991: 23-24]*²⁹。

内部選挙に関しては、民主的に選挙が実施されたと記すだけで、選挙の過程や結果を具体的に示した研究はない。具体例を詳細に見れば、懐疑説も認めるように、民主的な選挙が実施された例が存在することは想像される。しかし、伝統的、権威主義的な関係が変化していることを主張するのであれば、内部選挙の過程を具体的に明らかにしておく必要がある。それは、現在までのところ、伝統的な政治を代表すると考え

られる政党で内部選挙が行われる場合でも、その過程の透明性と公開性が外部から確認された例が存在しないからである [村上 1994: 50-52]。

同様に、内部の意思決定過程についても、具体的に記述した研究は見当たらない。肯定説の中で、内部の意思決定過程について最も詳しく記述している研究は、リマのある民衆食堂を扱ったシュワプの研究である。

シュワプは、研究対象とした民衆食堂の意思決定過程が、一般的には民主的であると結論づけている [Schwappe 1993: 141-162]。ただ、彼女は、緊急の場合に内部の民主的意思決定手続きを経ないで、責任者1人が決定を下す例外があると指摘し、特に、購入すべき材料の量や食事の料金などの組織全体の財政に関わる重要な事項が、緊急との理由から、総会で事前にメンバーに諮ることなく一方的に責任者が決定を下した例を記している。この一方的決定は、後に総会で追認されたとはいえ、民衆食堂のメンバーが日頃、組織の財政に関わる決定はメンバーの参加の下でなされるべきであると主張していただけに、シュワプは、以上の経緯には驚いたと述べている [Schwappe 1993: 148-149]。この民衆食堂の意思決定のルールには緊急な場合は何かについて明確な合意が存在せず、指導者に広い権限が委任されていると考えられ

*29 この傾向の背後に研究者の政治的意図を見る説も存在する。例えば、革新的な肯定説は、左翼系の政党や運動の指導者ないしはこれに近い立場の者が提起した [Parodi, ed. 1993: 13-14; Pásara Pazos 1991: 27-28]。マトス・マルの研究は「社会主義への独自の道を開く」ことを目標にした [Matos Mar 1984: 21]。革新的な肯定説は、左翼政党が社会運動の自律性を侵害していることを黙認したとの批判も存在する [Frias 1989: 4]。また、自由主義的な肯定説のデ・ソトも、その研究は「科学的というより政治的」であるとしている [De Soto Polar 1986: 16]。なお、参与観察の結果を具体的に紹介することなく、一般的に民主的だったと短く報告している例が1つだけある [Grandón G., ed. 1987: 36; 1990: 143]。

る。そうだとすれば、シュワプの記すケースは、彼女の結論とは異なり、懐疑説の事例と解釈することができる。

内部の過程を具体的に分析していない点と関連して、想起しておく必要があるのは、動員や組織化という事実を民主的性格と直接結びつけることはできない点である。言うまでもなく、組織化や動員が観察されても、それが民主的であることを自動的には意味しない。その内部の過程を分析しないことには、民主的か否かは判断がつかないのである。

ところが、非常に初期の段階で、「民主主義の度合いをはかる最良の指標は、組織化され、活発に参加する人民の存在である」とする見方が提出され [Ames Cobián 1981: 314], この影響を受けたのか、組織や連合の結成経緯の記述やそれらの数を示すにとどまる研究が散見される [Barnechea G. 1991: 31-32, 97-98; Barrig, ed. 1988: 85; Córdova Cayo y Luz Gorriti 1989: 48; Haak M. 1987: 17-18; Ruiz Bravo 1987: 109 - 119; Tovar Samanez y Zapata 1990: 153-154].

組織化や動員という現象自体は、1950年代の都市下層民の住民運動において既に観察されている [Matos Mar 1966: 155-157]。肯定説は、この時代とは異なった「政治の新しい方法」や「新しい社会慣行」が見られると主張するのであるから、その内容について具体的に記述する必要がある

う。

II. 下層民の政治意識に関する研究

1. 統計的手法による研究

前章で見た研究は社会で顕著に観察された組織活動に注目しており、これに含まれない未組織の下層民が視野に入っていない [Rochabrún Silva 1992: 106-107; Tovar Mendoza 1996: 51]*³⁰。また、これまで概観した研究は、地域や機能など一定の範囲に限定された集団を対象としたが、対象とされた集団や組織を下層民全体の中に位置づけることをせずに、その調査結果から下層民全体が論じられる傾向が強かった [Parodi, ed. 1993: 13-15]。

中には、調査対象としたリマのある区の社会的属性の調査をまず実施し、この結果を基にインタビューの対象を統計的に偏りのないものにした研究もある [Degregori Caso, *et al.* 1986: 34-35, 297-305]。だが、この研究を含め、選ばれた対象が下層民全体の中でどのような偏りを持つか、ないしその可能性があるかを十分に検討することはなかった*³¹。

こうした状況を受け、下層民一般の政治意識や政治文化を調査研究する必要性が提唱された [Adrianzén Merino 1992: 173-174]。数は少ないが、近年、対象を下層民全体に設定ないし想定した意識調査を行い、立論する研究が現れた。

*30 この点について、新しい社会の萌芽的特徴を示して、あり得る将来像を提示することが必要であると正当化する研究者もいる [Barrig, ed. 1988: 85 (M. J. Huamánの発言)]。だが、その政治性は*29で見られる通りである。

*31 研究対象ないし標本が代表的ではないと自認する研究もある [Barrig y Fort 1987: 134; Chávez O'Brien 1990b: 37]。

意識調査自体は、1980年代から民衆食堂の研究を中心に実施されてきた。早期に意識調査を取り入れた研究に、サラ・ラ・フォセの民衆食堂に関する研究がある。だが、この研究は、標本の母集団として、カトリック教会系のある慈善団体が支援する民衆食堂の名簿を使用した [Sara La Fosse Valderrama 1984: 23]。このため、母集団に偏りのある可能性が排除されていなかった*32。

この研究の後になされた意識調査の多くも、地域や機能など一定の範囲に限定された集団を対象としているが、これを下層民全体の中での位置づけようとはしなかった。中には、母集団と標本との関係を明確に提示しない研究もある*33。

以下では、下層民全体を調査対象とすることを意図した数少ない研究の主要な例として、ストークスの「政治意識変化」説とパロディの「人民投票の民主主義」説の2つの研究を検証する*34。

2. ストークスの「政治意識変化」説

ストークスは下層民の政治意識を調査するため、「下層民が居住する典型的な区」を設定する。その基準は、(a)下層民による

土地の不法占拠と政府による住宅建設政策が複合しつつ徐々に形成された、(b)住民が社会的により同質的である、(c)より居住地としての性格が強い、(d)空間的に他から区別される、の4つである。これに適合し、ストークスにとって研究が容易だったが、リマのインデペンデンシア区だった [Stokes 1995: 12-13]。

ストークスは、意識調査の母集団として有権者名簿を使用し*35、これを基に標本を作り、1986年に面接調査を行った。標本数は985、有効回答数は882、有効回答率は90パーセントである [Stokes 1995: 86-87]。

まず、ストークスは、居住地区にある諸組織は国家の支援を受けるべきか否かという問い、および国家に対する方法としては「闘争」(medidas de lucha)と「法的手続き」(trámites legales)のどちらがよいかという問いに対する答えに注目する。それは、3分の2が「支援を受けるべきである」、「法的手続き」と答え、残りの3分の1が「支援を受けるべきでない」、「闘争」と答えているからである。そして、他の質問に対する答えを交差させながら分析を進め、「急進派」(radical)と「クライアン

*32 同様の点は Backhaus [1988] についても言える。この研究は、ある NGO が主催した研修計画に参加した女性組織のメンバーを対象に意識調査を行った [Backhaus 1988: 17]。

*33 例えば Blondet Montero y Montero [1995], Grandón G. [1990] など。また、Huamán [1989] は、民衆食堂全体を母集団として統計的に処理された標本から分析している。だが、これは母集団を下層民全体の中で位置づけておらず、また、平等な役割分担自体を民主的参加と同一視するなど限界がある。Tueros [1984] はインフォーマル・セクターを代表するよう標本を作っているが、標本数が100と少なく、また保守・革新の傾向を分析するにとどまっている。

*34 他に、リマの下層民に対する意識調査(標本数506)を実施し、意思決定へ参加すべきであるかとの問いに賛成と答えた者が93パーセントだったなど、肯定説を支持する調査が存在する [Alarcón Glasinovich 1992: 12-27]。だが、この研究はその調査方法を明確にしておらず、また、少なくとも本章で言及するパロディの研究より母集団に含まれる地域が小さく、調査内容も単純で少ない。

*35 理由は、パルーでは投票は義務であり、また、有権者手帳は公式の身分証明書として使用されているからである。

第1a表

| よりよい戦略 | 居住地区内の諸組織は国家からの支援を受けるべきか | |
|--------|--------------------------|------|
| | 受ける | 受けない |
| 法的手続き | 73% | 56% |
| 闘争 | 27% | 44% |
| 合計 | 100% | 100% |

第1b表

| よりよい戦略 | 居住地区内の諸組織は国家からの支援を受けるべきか | |
|--------|--------------------------|------|
| | 受ける | 受けない |
| 法的手続き | 356人 | 157人 |
| 闘争 | 135人 | 123人 |

出典：第1a表はStokes [1995: 90] の第5表，第1b表はStokes [1989: 24; 1995: 90] をもとに筆者作成。

第2a表

| | 急進度 | | | |
|------|------|------|------|------|
| | 低 | → | | 高 |
| アブラ党 | 79% | 69% | 61% | 41% |
| 統一左翼 | 21% | 31% | 39% | 59% |
| 合計 | 100% | 100% | 100% | 100% |

第2b表

| | 急進度 | | | |
|------|------|------|-----|-----|
| | 低 | → | | 高 |
| アブラ党 | 149人 | 167人 | 85人 | 23人 |
| 統一左翼 | 39人 | 75人 | 55人 | 33人 |

出典：第2a表はStokes [1995: 105] の第14表，第2b表はStokes [1995: 105] をもとに筆者作成。

ト派」(clientelist) という比較的一貫した姿勢を持つ2つのグループを下層民の中に発見した [Stokes 1995: 87-90]。

さらに，ストークスは，急進度の違いにより「急進派」と「クライアント派」両派の間を4段階に分け，1985年の大統領選挙における統一左翼と中道左派のアブラ党の各々の候補者への支持を分析した。これによれば，急進度が低いほどアブラ党の候補に投票した者が多く，急進度が高いほど統一左翼の候補に投票した者が多い。そこで，ストークスは1980年代に統一左翼が勢力を

伸ばした背景には，下層民の意識が「クライアント派」から「急進派」へと変化したことがあると結論した [Stokes 1995: 102-105, 110]。

ストークスの説には，統一左翼の勢力伸長を説明しようとするあまり，調査結果を歪めて解釈している点があると思われる*36。この点について，ストークス自身が示すデータの中から2つ取り出して述べよう。

まず，「闘争」／「法的手続き」と国家からの支援を「受ける」／「受けない」と

*36 ストークスが調査を実施した1980年代後半には，左翼政権が誕生する見通しが語られ，これを題材とした小説も書かれた [遅野井 1991: 24, 26]。

いう姿勢の一貫性をめぐる点である。ストークスは「受ける」と答えた者と「受けない」と答えた者の間で、「闘争」／「法的手続き」の回答の率を比べている（第1a表）。そして、「法的手続き」と答えた者は「受ける」と答え、「闘争」と答えた者は「受けない」と答える傾向があると指摘する [Stokes 1995: 88-90]。だが、同じデータを率ではなく回答数で見ると、「闘争」と答える者でも、「受ける」と答える者の数の方が「受けない」と答える者よりも多くなる（第1b表）。

同様のことは、統一左翼とアブラ党の大統領候補への支持を比べたデータについても言える。ストークスは、4段階に分けた急進度の各々について支持率を表し（第2a表）、急進度が高まれば統一左翼への支持は上がるとした [Stokes 1995: 105]。ところが、同じデータを回答数で見ると、統一左翼を支持した202人のうち、56パーセントにあたる114人は急進度が低い者であった（第2b表）。つまり、アブラ党と同じく統一左翼も、半数以上の支持は「急進派」ではない人々から集めていたのである。

ここで問われるべきは、統一左翼の勢力伸長と急進度の関係ではなく、なぜ急進度が低くても統一左翼の候補に投票したのか、であろう。これに対する答えをストークスの分析から導き出すことはできない。

3. パロディの「人民投票的民主主義」説

ストークスは、1992年のフジモリによる憲法停止措置に関し、インデペンデンシア区の「急進派」の間ですら反対や憤りが観察されなかったと報告し、その理由を「民

主主義に関する新たな考え方」に求めた。つまり、下層民は、民主主義が本稿の冒頭で述べた80年代の危機と混乱を招いただけであると捉えており、この見方が憲法停止措置に反対しない姿勢を生んだという [Stokes 1995: 134-136]。だが、「民主主義の新たな見方」とストークス自身が分析した「急進派」の意識との内的な関係や矛盾の可能性について、彼女は何も述べていない。

ストークスの研究が残した問いへの回答を含め、1980年代以降の政治動向を説明する1つの仮説を提供したのがパロディである。パロディは、リマの下層民居住地区全体を母集団として標本（標本数600）を作り、1990年に意識調査を実施した [Parodi, ed. 1993: 21-23]。

パロディによれば、下層民の60パーセント以上が国家に期待することとして、学校・病院・住宅の建設、雇用創出、零細企業の振興など、国から支援を受けることをあげた。これに対し、意思決定への参加、公正な法の制定など民主政治の実現をあげる者は50パーセントを割った。また、経済的困難を克服する方法を尋ねると、個人の努力と並んで、利益を獲得するために組織を作るという回答が9割を占め、デモやストを行うと答えた者は4分の1にとどまった。さらに、住民組織の執行部を政府とより深い関係を持つ執行部に代えたとしたらどう思うかとの問いに、半数はよいことである (bueno) と答え、30パーセントは都合がよい (conveniente) と答えた。参加する組織を尋ねても、国などから支援を受けたり、支援を要求したりする組織への参加が多かった。これらのことから、パロデ

ィは、下層民は差し迫った問題の克服に関心があり、そのための便法として政治を捉えていると考える [Parodi, ed. 1993: 56-63, 66-67, 70-72]。

この指向を持つ下層民が求める指導者はその利益を代表する者ではない、とパロディはいう。下層民の62パーセントは、直面する問題を克服するために、責任のすべてを委任され自己犠牲もいとわず働く者を理想のリーダーと答えた。これに対し、事態を向上させる仕事へ下層民が協力することを要請する者が理想の指導者であると答えたのは37パーセントにとどまった。パロディは、政治的リーダーが、下層民の期待を背負うヒーロー (héroe)、ないしは救世主 (salvador) として捉えられていると指摘する [Parodi, ed. 1993: 63-65, 86-88]。

そして、パロディに従えば、問題の克服を期待してリーダーにすべてを委任する下層民の指向は、委任する相手を決定する選挙の時にのみ政治への関心を高めるという結果を招く。政治へ関心を持つ時を尋ねると、選挙がある時と答えたのが60パーセントで、25パーセントが全く関心がない、15パーセントが時々関心を持つとの回答だった。問題の克服を委任する指向を持つ下層民が統治者を選出する時に強い政治的関心を持つことから、これをパロディは「人民投票的民主主義」(democracia plebiscitaria) と名づける。ここでは、指導者が問題を克服してくれるという漠然とした期待が決定的な要因である。公正で (justo) かつ事態を向上させるならば、国民により選ばれない政府でもよいかとの問いに対して、81パーセントはよいと答え、よくないと答えたのは15パーセントだけだ

った [Parodi, ed. 1993: 79-81]。

以上の指向から、下層民は期待度に応じ選挙の度に支持を変え、強固な支持基盤とはならないとパロディは論ずる。1985年と90年の大統領選挙および89年の地方選挙における投票行動を調べると、各選挙で当選した、ないしは有力だった候補 (85年選挙でのアブラ党ないし統一左翼の大統領候補、89年選挙での無所属・独立系の候補、90年選挙でのフジモリ) に投票した者は33パーセントいた (パロディはこの投票行動を「人民投票的民主主義型」と呼ぶ)。これに対し、この3回の選挙で中道右派系、中道左派系、左翼系など各系統の政党推薦候補に一貫して投票した者は19パーセントだけだった (パロディは「党派型」と呼ぶ)。また、「人民投票的民主主義型」や「党派型」から外れる「その他の型」は49パーセントだった。パロディは「人民投票的民主主義型」が「党派型」を上回る原因を、有権者がイデオロギーや主義主張に関係なく、問題の克服への期待を託せる候補に投票したためと考える。そして、パロディは、チリの首都サンティアゴの下層民に対する意識調査と比較し、リマの下層民には「人民投票的民主主義」の傾向がより強く観察されると結論づける [Parodi, ed. 1993: 81-86, 108-116]。

実は、パロディの結論自体は既に指摘されていたことである。例えば、革新的な肯定説のマトス・マルは、「新秩序」形成の担い手の特徴の1つに「都合のよいものを受け入れる」(se acepta lo que conviene) 姿勢があると記した [Matos Mar 1984: 51]。自由主義的な肯定説のデ・ソトは、1940年代から下層民が、独裁などの政治体

制やイデオロギー・主義主張に関係なく、その利益にかなうことを実現すると期待できる指導者を支持するプラグマティックな指向を持ってきたと述べた [De Soto Polar 1986: 41, 285]。同様の指摘を、パロディは初めて統計的な手法を用いて行ったのである^{*37}。

他方、パロディの議論は、伝統的な正統性意識を論じたモースの立場と整合性を持つ。モースはラテンアメリカとアメリカ合衆国の思想史を比較し、後者では為政者の選出や意思決定の過程に関するルールや手続きを尊重することに正統性の源泉を求めるのに対し、ラテンアメリカでは結果や結果への期待によって正統性が導かれると述べた。ラテンアメリカの指向は、主権が国王やエリート、国家に委任されるべきであると考えたスペイン植民地時代の階層的秩序観に起源を持つという [Morse 1982: 42-66, 201-214]。

モースの議論に引きつけられれば、下層民は直面する問題を克服するという結果およびこの結果への期待度により、政治家や政治組織などに対する支持を歴史的に変えてきたことになる。こうした下層民の意識は、例えば、1970年代後半に高まりを見せた労働運動について、労働組合やその幹部に対

する労働者の認識でも観察されていた [Parodi 1986: 181-182]^{*38}。

ただ、パロディの研究にも限界がある。問題となるのは、投票行動について、前出の「その他の型」が49パーセントと「人民投票的民主主義型」を越えていることである。これについては、投票決定の理由を尋ねるなどしてより細かく有権者の指向を調べる必要があったと思われる。「その他の型」に分類される場合でも、政策議論や政策綱領などによってではなく、短期的な関心から問題の克服を漠然と期待して投票行動を変えた可能性があるからである。

意識調査の方法をもっと緻密にする必要があったにせよ、パロディの議論は仮説として有用であると思われる。それは、1980年代のペルー政治、フジモリの当選、憲法停止措置への国民の支持、1995年以降（第2期目）のフジモリに対する支持率の低下など、様々な政治動向を説明できるからである^{*39}。

結び

これまで、ペルーにおける下層民と政治の関係について、1980年以降の主な議論を概観してきた。最後に、これまでの研究で明らかになったことを記し、今後、研究を

*37 1990年の大統領選挙の結果を踏まえ、下層民14名に対する調査からこの指向を指摘した研究もある [Boggio, *et al.* 1991]。

*38 政治文化から捉えるこの立場は、1980年代以降の危機状況によりペルー人はフジモリの憲法停止措置を支持する権威主義的選択を行ったと捉える短期的変化説 [Alarcón Glasinovich 1992: 41-44; Panfichi 1997: 235-236] とは異なる。つまり、ペルー人が短期的な期待により支持を変える指向は、1980年代以降の危機状況で強まったにせよ、それ以前から存在していたと考える。その分、民主政治の定着にはより深刻な問題が存在すると捉える。

*39 例えば、1980年代のペラウンデ、ガルシア両大統領については、Cotler Dolberg [1988: 172-183], López Jiménez [1991: 171-205] など、フジモリ当選については、細野・遅野井 [1992], 遅野井 [1991; 1995] など、95年のフジモリ再選や最近のフジモリの支持率の低下の背景については村上 [1995; 1997]などを参照。

展開するにあたって課題とすべき点に触れておく。

まず、現在までの研究成果については、我々は未だ、研究を通じて発見された決定的な事実に基づいて一般的な議論を展開できる状態にはない。できることは、既存研究に基づいて仮説を示すだけである。

本稿でまず検討した肯定説は、下層民による民主的な政治空間の形成を主張した。だが、これは事実を克明に示しつつ立論しなかった。肯定説について、社会に見られる新しい要素とありうべき将来の展開の道筋を示したと述べる者もいた*40。だが、それは確固たる事実の上に構築された「ありうべき姿」ではなかった。

ただ、これは下層民による組織の完全な非民主性を意味するわけではない。これまで以上に詳細な事例研究が必要だが、懐疑説も、内部選挙や下層民の生活と直接関係する問題をめぐる活動について、民主的な過程が観察される場合が存在することは認めている。

それにもかかわらず、肯定説が提示したように、すべてを肯定的、楽観的に捉えることはできない。限られた事例しか知られていないが、PC 関係や権威主義的な過程が見られるのである。また、一般に民主的な過程が観察される例でも、緊急事項について事前の合意がないまま、緊急事項との理由から重大な決定が民主的な手続きを経ずに下されることもある。

また民主的な過程が見られるにしても、それは社会全体からすれば非常に小さな集団のレベルで、かつ限られた範囲においてである。そして、その集団間には制度的な繋がりには存在しない。ペルー社会は大きな規模の集団がなくなっており、無数の小さな集団に分かれる原子化 (atomización) 現象が起こっている。

下層民による政治は民主的とは一般に言えない曖昧な状況にあるといえる*41。これを説明する1つの視点はパロディが提供している。彼によれば、下層民は生活上で直面する深刻な問題の克服を指導者に委任し、具体的な成果を期待する。そして、そのための手段や方法について最終的には拘泥しないというものである。つまり、民主的な形で選挙や特定の事項に関する意志決定がなされ、また期待の減退によって指導者が更迭される場合もある。逆に、特定の問題を克服するために有効であると考えられる場合は、権威主義的な関係や決定を受け入れる場合もある。

以上のように考えると、事例研究において、民主的な場合と民主的でない場合とが同時に観察されても決して不思議ではない。また、1980年以降、選挙で大統領を選出している下層民が、フジモリによる92年の憲法停止措置を支持することも可能となる。そして、1980年以降のペルー政治は、一部の肯定説論者が主張する二重構造となっているのではない。むしろ、政治過程全体の

*40 *30を参照。

*41 肯定説の立場から、現状を厳しく評価することに関し、研究対象への共感がなく、また、将来の可能性を否定しているとの批判がある [Huber 1995: 125] が、これは受け入れられない。研究対象への共感は、現状を厳しく評価するか否かではかることはできないし、また、厳しい評価だからと言って、将来の可能性まで否定していると決めつけることもできないはずである。

動向は、下層民レベルの政治とパラレルの
関係にあり、これを反映してきたと考えら
れる。

また、1980年代に政治を担った政党勢力
は、前記の意識を持つ下層民を前に、民主
的な手続きを定着させる努力をほとんどし
なかった。民主的な政治教育よりも、下層
民の指向を与件とし、これを使って各勢力
の政治的伸長を図ることを優先させた。そ
の意味では、政党も下層民レベルの政治を
反映していたのである。

これまで述べてきたことはあくまでも現
在までの研究から言える仮説に過ぎない。
今後、この仮説は検証されなければならず、
同時により説得的な他の説明が発見される
か否か模索されなければならない。これは、
事例研究と意識調査などマクロ的な研究の

双方から追求される必要がある。

事例研究については、下層民による組織
の内部における政治過程を具体的に観察し
て、これを詳細に分析しなければならない。
内部の意思決定過程についての具体的な事
例による研究は少数であるし、選挙過程に
ついては存在しない。意識調査はさらに少
くなく、その枠組みをより緻密にする必要
もある。

また、これまでの研究では、事例研究と
意識調査が別々に行なわれてきた。それぞ
れの結果をつきあわせて検証する作業も十
分には行われてこなかった。今後は、既存
の研究を批判的に吸収・消化しつつ、事例
研究と意識調査の両アプローチを組み合わ
せて、重層的な研究を展開することが不可
欠である。

参考文献

Adams, Norma y Néstor Valdivia

1991 *Los otros empresarios : ética de migrantes y formación de empresas en Lima*, Colección Mínima 25. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.

Adrianzén Merino, Alberto Luis

1992 Lo popular y las nuevas identidades. En Alberto Adrianzén Merino y Eduardo Ballón Echegaray, eds. *Lo popular en América Latina : ¿una visión en crisis?* Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 161-176.

Alarcón Glasinovich, Walter

1992 La democracia en la mentalidad y prácticas populares. En Walter Alarcón Glasinovich, Carlos Franco Cortéz y Manuel Montoya Ugarte *¿De qué democracia hablamos ?* Lima : Centro de Estudios para el Desarrollo y la Participación, pp. 9-47.

Allou, Serge

1989 Gestión urbana y democracia : la experiencia de la Izquierda Unida en Lima. En Martha Schteingart, ed. *Las ciudades latinoamericanas en crisis : problemas y desafíos*. México, D. F. : Trillas, pp. 217-236.

Ames Cobián, Rolando

1981 Movimiento popular y construcción de la democracia. En Henry Pease García, Tomas Moulian, Antonio Melis, et al. *América Latina 80 : democracia y movimiento popular*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 311-327.

1985 Movimiento popular y política nacional : nuevos horizontes, *Tarea* No. 12 : 3-7.

Ames Cobián, Rolando, y Jorge Nieto Montesinos

1987 Asediando al Leviatán, *Cuestión de estado* No. 1 : 12-18.

Andrade, Ana María, y Diana Cordano

- 1987 Las organizaciones económicas populares de San Martín de Porres : el caso de los vendedores ambulantes y las talleristas de tejido. En Roelfien Haak M. y Javier Díaz Albertini, eds. *Estrategias de vida en el sector urbano popular*, Serie experiencias de desarrollo popular No. 8. Lima : FOVIDA, Asociación Fomento de la Vida y DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 163-186.
- Apel, Karin
1996 *De la hacienda a la comunidad : la sierra de Piura 1934-1990*. Lima : Instituto de Estudios Peruanos e Instituto Francés de Estudios Andinos.
- Backhaus, Annette
1988 *La dimensión de género en los proyectos de promoción a la mujer : necesidad y reto*, Serie Enfoques Peruanos 11. Lima : Fundación Friedrich Naumann.
- Balbi Scarneo, Carmen Rosa
1989 *Identidad clasista en el sindicalismo : su impacto en las fábricas*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo.
- Balbi Scarneo, Carmen Rosa, y Julio Gamero
1990 Los trabajadores en los 80 : entre la formalidad y la informalidad. En Carmen Rosa Balbi Scarneo, Eduardo Ballón Echegaray, Maruja Barrig, et al. *Movimientos sociales : elementos para una relectura*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 55-109.
- Ballón Aguirre, Francisco
1987 Política de la supervivencia : las organizaciones de los pueblos indígenas de la amazonía peruana, *Apuntes* No. 20 : 105-119.
- Ballón Echegaray, Eduardo
1986a Los movimientos sociales en la crisis : el caso peruano. En Eduardo Ballón Echegaray, ed. *Movimientos sociales y crisis : el caso peruano*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 11-44.
1986b Movimientos sociales y sistema político : el lento camino de la democratización, síntesis nacional. En Eduardo Ballón Echegaray, ed. *Movimientos sociales y democracia : la fundación de un nuevo orden*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 229-253.
1989 El proceso de constitución del movimiento popular peruano. En Daniel Camacho y Rafael Menjivar, coords. *Los movimientos populares en América Latina*. México, D. F.: Siglo Veintiuno Editores y la Universidad de las Naciones Unidas, pp. 308-342.
1990 Movimientos sociales : itinerario de transformaciones y lecturas. En Carmen Rosa Balbi Scarneo, Eduardo Ballón Echegaray, Maruja Barrig, et al. *Movimientos sociales : elementos para una relectura*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 11-53.
1992 Actores sociales y populares : orientaciones y cambios. En Alberto Adrianzén Merino y Eduardo Ballón Echegaray, ed. *Lo popular en América Latina : ¿una visión en crisis ?* Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 117-132.
- Ballón Echegaray, Eduardo, ed.
1986 *Movimientos sociales y democracia : la fundación de un nuevo orden*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo.
- Barnechea G., María Mercedes
1991 *Con tu puedo y con mi quiero... : el proceso de centralización de comedores en San Juan de Lurigancho*. Lima : TACIF, Taller de Capacitación e Investigación Familiar y Fundación Friedrich Naumann.
- Barrig, Maruja
1986 Democracia emergente y movimiento de mujeres. En Eduardo Ballón Echegaray, ed. *Movimientos sociales y democracia : la fundación de un nuevo orden*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 143-183.
1990 Quejas y contentamientos : historia de una política social, los municipios y la organi-

- zación femenina en Lima. En Carmen Rosa Balbi Scarneo, Eduardo Ballón Echegaray, Maruja Barrig, *et al.* *Movimientos sociales : elementos para una relectura*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 169-199.
- 1994 The Difficult Equilibrium between Bread and Roses : Women's Organizations and Democracy in Peru. In Jane S. Jaquette, ed. *The Women's Movement in Latin America : Participation and Democracy*. Second Edition, Boulder, Colo. : Westview, pp. 151-175.
- Barrig, Maruja, ed.
1988 *De vecinas a ciudadanas : la mujer en el desarrollo urbano*. Lima : Instituto de Estudios Socio-económicos y Fomento del Desarrollo-CENTRO y Grupo de Trabajo Servicios Urbanos y Mujeres de Bajos Ingresos-SUMBI.
- Barrig, Maruja, y Amelia Fort
1987 *La ciudad de las mujeres : pobladores y servicios, el caso de El Agustino*, Documento de trabajo. Lima : Instituto de Estudios Socio-económicos y Fomento del Desarrollo-CENTRO y Grupo de Trabajo Servicios Urbanos y Mujeres de Bajos Ingresos-SUMBI.
- Blondet Montero, Cecilia
1985 Nuevas formas de hacer política : las amas de casa populares, *Allpanchis* No. 25 : 195-208.
1986 *Muchas vidas construyendo una identidad : mujeres pobladoras de un barrio limeño*, Documento de trabajo No. 9. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
1991 *Las mujeres y el poder : una historia de Villa El Salvador*, Urbanización, Migraciones y Cambios en la Sociedad Peruana 10. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
1993 Poder y organizaciones populares : estrategias de integración social. En Augusto Alvarez Rodrich, ed. *El poder en el Perú*. Lima : Editorial Apoyo, pp. 189-201.
1995 El movimiento de mujeres en el Perú 1960-1990. En Julio Cotler Dolberg, ed. *Perú 1964-1994 : economía, sociedad y política*, Perú Problema 24. Lima : Instituto de Estudios Peruanos, pp. 103-134.
- Blondet Montero, Cecilia, y Carmen Montero
1995 *Hoy, menú popular : comedores en Lima*. Lima : Instituto de Estudios Peruanos y UNICEF.
- Boggio, Ana, Zolia Boggio, Hugo De la Cruz, Antonieta Florez y Emma Raffo
1990 *La organización de la mujer en torno al problema alimentario : una aproximación socioanalítica sobre los comedores de Lima metropolitana, década del '80*. Lima : Centro Latinoamericano de Trabajo Social.
- Boggio, María Rosa, Fernando Romero y Juan Ansión
1991 *El pueblo es así y también así : lógicas culturales en el voto popular*. Lima : Instituto Democracia y socialismo.
- Calderón Cockburn, Julio, y Luis Olivera Cárdenas
1989 *Municipio y pobladores en la habilitación urbana (Huaycán y Laderas de Chillón)*, Cuadernos DESCO No. 13. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo.
- Calderón Cockburn, Julio, y Rocío Valdeavellano
1991 *Izquierda y democracia, entre la utopía y la realidad : tres municipios en Lima*. Lima : Instituto de Desarrollo Urbano-CENCA.
- Calderón Gutiérrez, Fernando
1995 *Movimientos sociales y política : la década de los ochenta en Latinoamérica*. México, D. F. : Siglo Veintiuno Editores.
- Calderón Gutiérrez, Fernando, y Mario M. Dos Santos, comps.
1987 *Los conflictos por la constitución de un nuevo orden*. Buenos Aires : Consejo Latinoamericano de Ciencias Sociales.

- Camacho, Daniel, y Rafael Menjivar, coords.
1989 *Los movimientos sociales en América Latine*. México, D.F.: Siglo Veintiuno Editores.
- Cameron, Maxwell A.
1994 *Democracy and Authoritarianism in Peru : Political Coalitions and Social Change*. New York : St. Martin's Press.
- Cameron, Maxwell A., and Philip Mauceri, eds.
1997 *The Peruvian Labyrinth : Polity, Society, Economy*. Pennsylvania : The Pennsylvania State University Press.
- Cánepa García, María Angela ed.
1993 *Esquinas, rincones, pasadizos : bosquejos sobre juventud peruana*. Lima : Centro de Estudios y Publicaciones e Instituto Bartolomé de Las Casas-Rímac.
- Carrión, Julio
1991 *La juventud popular en el Perú*, Colección Mínima 21. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- Chávez O'Brien, Eliana
1990a El empleo en los sectores populares urbanos : de marginales a informales. En José Alberto Bustamante Belaunde, Eliana Chávez O'Brien, Romeo Grompone, et al. *De marginales a informales*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 71-124.
1990b ¿ Votaron los informales por Fujimori ? : una reveladora encuesta, *Quehacer* No. 64 : 36-42.
- Chávez Pais, Irma
1997 ¿ Ciudadanía o sobrevivencia ? : tensión y posibilidad en las mujeres de sectores populares. En Carmen Rosa Balbi Scarneo, ed. *Lima : aspiraciones, reconocimiento y ciudadanía en los noventa*. Lima : Pontificia Universidad Católica del Perú, pp.107-134.
- Chirinos S., Luis A.
1986 Gobierno local y participación vecinal : el caso de Lima metropolitana, *Socialismo y participación* No. 36 : 1-28.
1991 La participación vecinal. En Henry Pease García, ed. *Construyendo un gobierno metropolitano : políticas municipales 1984-1986*. Lima : Instituto para la Democracia Local, pp. 87-138.
- Comisión Habitat, ed.
s.f. *Gestión popular del habitat : 7 experiencias en el Perú*. Lima : Comisión Habitat (¿ 1991 ?).
- Collier, David
1978 *Barriadas y élites : de Odría a Velasco*, Urbanización, Migraciones y Cambios en la Sociedad Peruana 4. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- Córdova Cayo, Patricia
1996 *Liderazgo femenino en Lima : estrategias de supervivencia*. Lima : Fundación Friedrich Ebert.
- Córdova Cayo, Patricia, ed.
1992 *Mujer y liderazgo : entre la familia y la política*. Lima : Asociación Civil Estudios y Publicaciones Urbanas YUNTA.
- Córdova Cayo, Patricia, y Carmen Luz Gorriti
1989 *Apuntes para una interpretación del movimiento de mujeres : los comedores comunales y los Comités del Vaso de Leche en Lima*. Lima : Grupo de Trabajo Servicios Urbanos y Mujeres de Bajos Ingresos-SUMBI.
- Coronado del Valle, Jaime, y Ramón Pajuelo
1996 *Villa El Salvador : poder y comunidad*. Lima : Centro Comunitario de Salud Mental y Centro de Investigaciones Sociales.
- Cotler Dolberg, Julio
1968 La mecánica de la dominación interna y del cambio social en la sociedad rural. En

- José Matos Mar, Augusto Salazar Bondy, Alberto Escobar, *et al.* *Perú problema : cinco ensayos*, Perú Problema 1. Lima : Instituto de Estudios Peruanos, pp. 165-213.
- 1978 *Clases, estado y nación en el Perú*, Perú Problema 17. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- 1980 *Democracia e integración nacional*. Colección Mínima 8, Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- 1988 Los partidos políticos y la democracia en el Perú. En Luis Humberto Pásara Pazos y Jorge Parodi, eds. *Democracia, sociedad y gobierno en el Perú*. Lima : Centro de Estudios de Democracia y Sociedad, pp. 151-191.
- 1994 *Política y sociedad en el Perú : cambios y continuidades*, Perú Problema 32. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- De Soto Polar, Hernando
- 1986 *El otro sendero : la revolución informal*. Lima : Editorial El Barranco.
- Degregori Caso, Carlos Iván
- 1989 Introducción : la cara oculta de los movimientos sociales. En Servicios Educativos Rurales, ed. *Sólo organizados podemos vencer*. Lima : Servicios Educativos Rurales, pp. 13-29.
- Degregori Caso, Carlos Iván, Cecilia Blondet Montero y Nicolás Lynch Gamero
- 1986 *Conquistadores de un nuevo mundo : de invasores a ciudadanos en San Martín de Porres*, Urbanización, Migraciones y Cambios en la Sociedad Peruana 8. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- Degregori Caso, Carlos Iván, José Coronel, Ponciano del Pino, *et al.*
- 1996 *Las rondas campesinas y la derrota de Sendero Luminoso*, Estudios de la sociedad rural 15. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- Delpino, Nena
- 1991 Las organizaciones femeninas por la alimentación : un menú sazonado. En Luis Humberto Pásara Pazos, Nena Delpino, Rocío Valdeavellano, *et al.* *La otra cara de la luna : nuevos actores sociales en el Perú*. Buenos Aires : Centro de Estudios de Democracia y Sociedad, pp. 29-72.
- Díaz Palacios, Julio Ernesto
- 1990 *Municipio : democracia y desarrollo*. Lima : Centro de Investigación, Documentación y Asesoría Poblacional, Instituto para la Democracia Local, Labor-Ilo y Tarea.
- Dieringer, Patricia
- 1987 Organización popular y comedores populares en Chimbote. En Roelfien Haak y Javier Díaz Albertini, eds. *Estrategias de vida en el sector urbano popular*, Serie experiencias de desarrollo popular No. 8. Lima : FOVIDA, Asociación Fomento de la Vida y DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 113-122.
- Dietz, Henry A.
- 1986 *Pobreza y participación política bajo un régimen militar*. Lima : CIUP, Centro de Investigación, Universidad del Pacífico.
- Dietz, Henry A., y William E. Dugan
- 1996 Clases sociales urbanas y comportamiento electoral en Lima : un análisis de datos agregados. En Fernando Tuesta Soldevilla, ed. *Los enigmas del poder : Fujimori 1990-1996*. Lima : Fundación Friedrich Ebert, pp. 251-274.
- Driant, Jean-Claude
- 1991 *Las barriadas de Lima : historia e interpretación*. Lima : Instituto Francés de Estudios Andinos y DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo.
- Eguiguren, Francisco, Mario Pardón, Eduardo Palacios, *et al.*
- 1984 *Experiencias de promoción del desarrollo y organización popular*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo.
- Escobar, Arturo, y Sonia E. Alvarez, eds.
- 1992 *The Making of Social Movements in Latin America : Identity, Strategy, and Democracy*. Boulder, Colo.: Westview Press.

- Espinosa de Rivero, Oscar
1995 *Rondas campesinas y nativas en la amazonía peruana*. Lima : Centro Amazónico de Antropología y Aplicación Práctica.
- Fernández Baca, Inés y Luis Nieto Degregori
1997 *Nosotros los cusqueños : visión de progreso del poblador urbano del Cusco*. Cusco : Centro de Educación y Comunicación Guamán Poma de Ayala.
- Fernández Gálvez, Carmen y Lynn Aguirre Fernández
1995 *Bases andinas del bienestar social : a propósito de las políticas sociales y el trabajo social*. Lima : Ediciones Azalea.
- Flores, Antonieta
1989 Aspectos organizativos. En Nora Galer M. y Pilar Nuñez Carvallo, eds. *Mujer y comedores populares*. Lima : Servicios para el Desarrollo, pp. 129-141.
- Forsyth, Albert
1989 Asentamientos humanos (Instituto Libertad y Democracia/Lima).
- Foweraker, Joe
1995 *Theorizing Social Movements*. Critical Studies on Latin America, Boulder, Colo.: Pluto Press.
- Francke, Marfil
1996 La participación de la mujer en los proyectos de desarrollo rural. En Patricia Ruiz Bravo, ed. *Detrás de la puerta : hombres y mujeres en el Perú de hoy*. Lima : Pontificia Universidad Católica del Perú, pp. 203-219.
- Franco Cortéz, Carlos
1991 *Imágenes de la sociedad peruana : la «otra» modernidad*. Lima : Centro de Estudios para el Desarrollo y la Participación.
- Frías, Carlos
1984 Las organizaciones populares urbanas : situación actual y perspectivas, *Tarea* Nos. 9/10 : 13-16.
1989 *Experiencias de Gestión del habitat por organizaciones populares urbanas*. Lima : Centro de Investigación Documentación y Asesoría Poblacional e Instituto Francés de Estudios Andinos.
- Frías, Carlos, y Fernando Romero
1985 Organización popular urbana y democracia, *Tarea* No. 12 : 8-15.
- Galer M., Nora, y Pilar Nuñez Carvallo, eds.
1989 *Mujer y comedores populares*. Lima : Servicios para el Desarrollo.
- Gitlitz, John S., and Telmo Rojas
1983 Peasant Vigilante Committees in Northern Peru, *Journal of Latin American Studies* 15(1): 163-197.
- Golte, Jürgen
1995 Nuevos actores y culturas antiguas. En Julio Cotler Dolberg, ed. *Perú 1964-1994 : economía, sociedad y política*, Perú Problema 24. Lima : Instituto de Estudios Peruanos, pp. 135-148.
- Golte, Jürgen y Norma Adams
1987 *Los caballos de Troya de los invasores : estrategias campesinas en la conquista de la Gran Lima*, Urbanización, Migraciones y Cambios en la Sociedad Peruana 9. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- Gonzales, Omar, Martín Tanaka, Luis Nauca, et al.
1991 *Normal nomás : los jóvenes en el Perú de hoy*. Lima : Instituto Democracia y Socialismo, Centro de Investigación, Documentación y Asesoría Poblacional y Centro de Divulgación de Historia Popular.
- González, Eduardo, Rosa Mendoza y Martín Santos
1995 *Ciudad de jóvenes : imágenes y cultura*, Colección temas en sociología No. 5. Lima : Pontificia Universidad Católica del Perú.
- Granados Mogrovejo, Arturo

- 1996 *Madresantas y maquiavelas bulliciosas : mujeres y negociación política*. Lima : CALANDRIA, Asociación de Comunicadores Sociales.
- Grandón G., Alicia
 1990 *Discriminación y sobrevivencia*. Lima : Pontificia Universidad Católica del Perú y Fundación Friedrich Naumann.
- Grandón G., Alicia ed.
 1987 *Crisis y organizaciones populares de mujeres*. Lima : Pontificia Universidad Católica del Perú.
- Grompone, Romeo
 1985 *Talleristas y vendedores ambulantes en Lima*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo.
 1990 Las lecturas políticas de la informalidad. En José Alberto Bustamante Belaunde, Eliana Chávez O'brien, Romeo Grompone, et al. *De marginales a informales*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 33-67.
 1991a *El velero en el viento : política y sociedad en Lima*, Urbanización, Migraciones y Cambios en la Sociedad Peruana 12. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
 1991b Iniciativas populares en Lima : nuevos espacios y límites. En Alejandro Toledo Manrique y Alain Chanlat, eds. *Las otras caras de la sociedad informal : una visión multidisciplinaria*. Lima : ESAN/IDE, Escuela de Administración de Negocios para Graduados/Instituto de Desarrollo Económico y HEC, École des Hautes Études Commerciales, pp. 221-273.
- Guerrero Bedoya, Elsie
 1991 El comercio ambulatorio. En Henry Pease García, ed. *Construyendo un gobierno metropolitano : políticas municipales 1984-1986*. Lima : Instituto para la Democracia Local, pp. 353-389.
- Guzmán Barcos, Virginia
 1990 *Las organizaciones de mujeres populares : tres perspectivas de análisis*, Documento de trabajo I. Lima : Centro de la Mujer Peruana Flora Tristán.
- Guzmán Barcos, Virginia y Alicia Pinzás Stoll
 s. f. *Biografías compartidas : redes sociales en Lima*. Lima : Centro de la Mujer Peruana Flora Tristán.
- Haak M., Roelfien
 1987 El programa del vaso de leche. En Roelfien Haak M. y Javier Díaz Albertini, eds. *Estrategias de vida en el sector urbano popular*, Serie experiencias de desarrollo popular No. 8. Lima : FOVIDA, Asociación Fomento de la Vida y DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 55-73.
- Haak M., Roelfien, y Oscar Ugarte U.
 1991 Alimentación y salud. En Henry Pease Garcia, ed. *Construyendo un gobierno metropolitano : políticas municipales 1984-1986*. Lima : Instituto para la Democracia Local, pp. 245-262.
- Harvey, Penelope
 1989 *Género, autoridad y participación política de la mujer en pueblos andinos*, Documento de trabajo No. 33. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- Henríquez, Narda
 1986 Notas y tesis sobre los movimientos regionales en el Perú. En Eduardo Ballón Echeagaray, ed. *Movimientos sociales y crisis : el caso peruano*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 165-224.
 1996 Las señoras dirigentes: experiencias de ciudadanía en barrios populares. En Patricia Ruiz Bravo, ed. *Detrás de la puerta : hombres y mujeres en el Perú de hoy*. Lima : Pontificia Universidad Católica del Perú, pp. 145-161.
- 細野昭雄・遅野井茂雄
 1992 『試練のフジモリ大統領——現代ペルー危機をどう捉えるか』日本放送出版協会。
- Huamán, María Josefina

- 1985 La mujer y el desarrollo urbano. En Nora Galer M., Virginia Guzmán Barcos y María Gabriela Vega, eds. *Mujer y desarrollo*, Serie experiencias de desarrollo popular No. 4. Lima : Centro de la Mujer Peruana Flora Tristán y DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 93-114.
- 1989 Economía y organización en los comedores. En Nora M. Galer y Pilar Nuñez Carvallo, eds. *Mujer y comedores populares*. Lima : Servicios para el Desarrollo, pp. 143-177.
- Huber, Ludwig
- 1995 *"Después de Dios y la Virgen está la ronda" : las rondas campesinas de Piura*, Colección Mínima 31. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- Iziga Nuñez, Roger
- 1993 *Sociología, movimientos sociales y espacio urbano : el caso de Lima Metropolitana*. Lima : Universidad Nacional Mayor de San Marcos.
- Jochamowitz, Luis
- 1993 *Ciudadano Fujimori : la construcción de un político*. Lima : PEISA.
- Larrea O., José Enrique
- 1989 *Poblaciones urbanas precarias : el derecho y el revés (el caso Ancieta Alta)*, Serie : creación 1. Lima : Servicios Educativos El Augustino.
- Lobo, Susan B.
- 1984 *Tengo casa propia : organización social en las barriadas de Lima*, Urbanización, Migraciones y Cambios en la Sociedad Peruana 5. Lima : Instituto de Estudios Peruanos e Instituto Indigenista Interamericano.
- López Jiménez, María Angeles
- 1994 La organización popular en Lima : de la tradición comunitaria a la participación ciudadana. En Tomás R. Villasante, coord. *Las ciudades hablan : identidades y movimientos sociales en seis metrópolis latinoamericanas*. Caracas : Editorial Nueva Sociedad, pp. 233-250.
- López Jiménez, Sinesio
- 1991 *El dios mortal : estado, sociedad y política en el Perú del siglo XX*. Lima : Instituto Democracia y Socialismo.
- Lora, Carmen
- 1996 *Creciendo en dignidad : movimiento de comedores autogestionarios*. Lima : Instituto Bartolomé de Las Casas y Centro de Estudios y Publicaciones.
- Lynch Gamero, Nicolás
- 1992 *La transición conservadora : movimiento social y democracia en el Perú, 1975-1978*. Lima : El zorro de abajo ediciones.
- Matos Mar, José
- 1966 *Las barriadas de Lima 1957*, Urbanización, Migraciones y Cambios en la Sociedad Peruana 1. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- 1984 *Desborde popular y crisis del estado : el nuevo rostro del Perú en la década 1980*, Perú Problema 21. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- 1991 El sector informal : sociedad y cultura. En Alejandro Toledo Manrique y Alain Chanlat, eds. *Las otras caras de la sociedad informal : una visión multidisciplinaria*, Lima : ESAN/IDE, Escuela de Administración de Negocios para Graduados/Instituto de Desarrollo Económico y HEC, École des Hautes Études Commerciales, pp. 135-153.
- Mauceri, Philip
- 1996 *State under Siege : Development and Policy Making in Peru*. Boulder, Colo. : Westview Press.
- McAdam, Doug, John D. McCarthy, and Mayer N. Zald eds.
- 1996 *Comparative Perspectives on Social Movements : Political Opportunities, Mobilizing Structures, and Cultural Framings*, Cambridge Studies in Comparative Politics. N.Y. : Cambridge University Press.

Montes López, Ofelia

1987 El comedor popular : de la gestión individual a la participación colectiva. En Roelfien Haak y Javier Diaz Albertini, eds. *Estrategias de vida en el sector urbano popular*, Serie experiencias de desarrollo popular No. 8. Lima : FOVIDA, Asociación Fomento de la Vida y DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 75-94.

1989 Parando la olla juntas : el caso de El Agustino. En Nora Galer M. y Pilar Nuñez Carvallo, eds. *Mujer y comedores populares*. Lima : Servicios para el Desarrollo, pp. 239-253.

Morse, Richard M.

1982 *El espejo de Próspero : un estudio de la dialéctica del Nuevo Mundo*. México, D.F.: Siglo Veintiuno Editores.

村上勇介

1994 「ペルーの政党に関する一考察」『外務省調査月報』No. 2 : 43-67。

1995 「ペルーの1995年選挙に関する一考察」『イペロアメリカ研究』(上智大学イペロアメリカ研究所) 17(1): 17-34。

1997 「第二次フジモリ政権の政治的課題」『外交時報』(外交時報社) No. 1337 : 51-66。

中川文雄・松下洋・遅野井茂雄

1985 『ラテンアメリカ現代史II — アンデス・ラプラタ地域』世界現代史34, 山川出版社。

Nieto Montesinos, Jorge

1986 El sindicalismo obrero industrial peruano : en busca del espacio perdido. En Eduardo Ballón Echegaray, ed. *Movimientos sociales y democracia : la fundación de un nuevo orden*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 47-65.

Núñez Callirgos, David ed.

1988 *Gestión municipal y participación vecinal : primer rimancuy urbano wanchaq '87*. Lima : Fundación Friedrich Ebert.

Olivera Cárdenas, Luis

1994 Lima y su organización urbano-popular. En Tomás R. Villasante, coord. *Las ciudades hablan : identidades y movimientos sociales en seis metrópolis latinoamericanas*. Caracas : Editorial Nueva Sociedad, pp. 221-231.

Olivera Cárdenas, Luis, María del Carmen Piazza y Ricardo Vergara

1991 *Municipios : desarrollo local y participación*, Cuadernos Desco 16. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo.

大串和雄

1995 『ラテンアメリカの新しい風 — 社会運動と左翼思想』同文館出版。

遅野井茂雄

1991 「ペルーの政治変動 — フジモリ現象への一接近」『アジア経済』32(9) : 21-43。

1995 『現代ペルーとフジモリ政権』アジアを見る眼91, アジア経済研究所。

Palacios, Eduardo

1984 Los problemas de la vivienda y la experiencia de auto-construcción popular en Canto Grande. En Francisco Eguiguren, Mario Pardón, Eduardo Palacios, et al. *Experiencias de promoción del desarrollo y organización popular*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 117-136.

Panfichi, Aldo

1997 The Authoritarian Alternative : 'Anti-Politics' in the Popular sectores of Lima. In Douglas A. Chalmers, Carlos M. Vilas, Katherine Hite, et al., eds. *The New Politics of Inequality in Latin America : Rethinking Participation and Representation*. N.Y. : Oxford University Press, pp. 216-236.

Panfichi, Aldo, y César Francis

1993 Liderazgos políticos autoritarios en el Perú, *Debates en sociología* 18 : 227-247.

Parodi, Jorge

1986a La desmovilización del sindicalismo industrial peruano en el segundo belaundismo. En Eduardo Ballón Echegaray, ed. *Movimientos sociales y crisis : el caso peruano*.

- Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 45-68.
- 1986b “ *Ser obrero es algo relativo...* ” : *obreros, clasismo y política*, Urbanización, Migraciones y Cambios en la Sociedad Peruana 7. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- Parodi, Jorge ed.
1993 *Los pobres, la ciudad y la política*. Lima : Centro de Estudios de Democracia y Sociedad.
- Pásara Pazos, Luis Humberto
1991 Nuevos actores : devaluación de la moneda corriente. En Luis Humberto Pásara Pazos, Nena Delpino, Rocío Valdeavellano, *et al.* *La otra cara de la luna : nuevos actores sociales en el Perú*. Buenos Aires : Centro de Estudios de Democracia y Sociedad, pp. 6-28.
- Pásara Pazos, Luis Humberto, Nena Delpino, Rocío Valdeavellano, *et al.*
1991 *La otra cara de la luna : nuevos actores sociales en el Perú*. Buenos Aires : Centro de Estudios de Democracia y Sociedad.
- Pásara Pazos, Luis Humberto, y Alonso Zarzar
1991 Ambigüedades, contradicciones e incertidumbres. En Luis Humberto Pásara Pazos, Nena Delpino, Rocío Valdeavellano, *et al.* *La otra cara de la luna : nuevos actores sociales en el Perú*. Buenos Aires : Centro de Estudios de Democracia y Sociedad, pp. 174-203.
- Pease García, Henry
1981 Perú : del reformismo militar a la democracia tutelada. En Henry Pease García, Tomas Moulian, Antonio Melis, *et al.* *América Latina 80 : democracia y movimiento popular*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 439-473.
1989 *Democracia local : reflexiones y experiencias*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo.
1991 Lima es gobernable : una gestión municipal popular y democrática. En Henry Pease García, ed. *Construyendo un gobierno metropolitano : políticas municipales 1984-1986*. Lima : Instituto para la Democracia Local, pp. 23-38.
- Pease García, Henry ed.
1991 *Construyendo un gobierno metropolitano : políticas municipales 1984-1986*. Lima : Instituto para la Democracia Local.
- Pease García, Henry, Tomas Moulian, Antonio Melis, *et al.*
1981 *América Latina 80 : democracia y movimiento popular*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo.
- Pérez Mundaca, José
1997 *Montoneras, bandoleros y rondas campesinas : violencia política, abigeato y autodefensa en Cajamarca, 1855-1990*. Cajamarca, Perú : Asociación Obispo Martínez Compañón.
- Pineda Blanco, Luis, Marcio Quintana Buitrón, Gonzalo Espino Relucé, *et al.*
1993 *Ciudadanía y democracia : percepciones de los jóvenes en medio de la crisis*. Lima : ALTERNATIVA, Centro de Investigación Social y Educación Popular y TAREA, Asociación de Publicaciones Educativas.
- Pomar Ampuero, Nelly
1997 Gobierno local, ciudadanía e izquierda en Lima metropolitana : Independencia y Villa El Salvador. En Carmen Rosa Balbi Scarneo, ed. *Lima : aspiraciones, reconocimiento y ciudadanía en los noventa*. Lima : Pontificia Universidad Católica del Perú, pp. 135-163.
- Quispe De la Torre, Daniel
1989 *La democracia directa : contribución al análisis del movimiento barrial*. Lima : Editorial San Marcos.
- Rénique, José Luis
1986 Democracia y movimiento social en el sur andino. En Eduardo Ballón Echeagaray, ed.

- Movimientos sociales y democracia : la fundación de un nuevo orden.* Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 185-228.
- Riofrío Benavides, Gustavo
1990 *Producir la ciudad (popular) de los '90 : entre el mercado y el Estado.* Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo.
- Rochabrún Silva, Guillermo
1992 Del mito proletario al mito popular. En Alberto Adrianzén Merino y Eduardo Ballón Echegaray, eds. *Lo popular en América Latina : ¿una visión en crisis?* Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 101-115.
- Rodríguez Doig, Enrique
1994 *Entre el campo y la ciudad : estrategias migratorias frente a la crisis.* Lima : Centro de Estudios para el Desarrollo y la Participación.
- Rojas Julca, Julio Andrés
1989 *Gobierno municipal y participación ciudadana : experiencias de Lima Metropolitana 1984-1986.* Lima : Fundación Friedrich Ebert.
- Ruiz Bravo, Patricia
1987 Programas de promoción y organizaciones de mujeres : tres períodos. En Alicia Grandón G., ed. *Crisis y organizaciones populares de mujeres.* Lima : Pontificia Universidad Católica del Perú, pp. 91-124.
- Sara La Fosse Valderrama, Violeta
1984 *Comedores comunales : la mujer frente a la crisis.* Lima : Grupo de Trabajo, Servicios Urbanos y Mujeres de Bajos Ingresos.
1989 Los comedores y la promoción de la mujer. En Nora M. Galer y Pilar Nuñez Carvallo, eds. *Mujer y comedores populares.* Lima : Servicios para el Desarrollo, pp. 187-212.
- Schmidt, Gregory
1996 Comportamiento electoral estratégico : la fuerza oculta en el Tsunami. En Fernando Tuesta Soldevilla, ed. *Los enigmas del poder : Fujimori 1990-1996.* Lima : Fundación Friedrich Ebert, pp. 203-249.
- Schwappe, Cornelia
1993 *Organizaciones populares y cambio social en América Latina.* Sankt Augustin, Alemania : Fundación Konrad Adenauer.
- Serrano, Cecilia
1987 La calificación y adjudicación de lotes : una experiencia democrática-participativa. En Roelfien Haak y Javier Díaz Albertini, eds. *Estrategias de vida en el sector urbano popular*, Serie experiencias de desarrollo popular No. 8. Lima : FOVIDA, Asociación Fomento de la Vida y DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 225-240.
- 重富恵子
1996 「ペルーの低所得者居住区における共同調理活動」『ラテンアメリカ・レポート』（アジア経済研究所）13(2) : 15-26。
- Slater, David, ed.
1985 *New Social Movements and the State in Latin America.* Amsterdam : Centre for Latin American Research and Documentation.
- Starn, Orin
1991 "Con los llanques todo barro" : reflexiones sobre rondas campesinas, protesta rural y nuevos movimientos sociales, Colección Mínima 24. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- Stein, Steve y Carlos Monge Salgado
1988 *La crisis del estado patrimonial en el Perú*, Ideología y política No.5. Lima : Instituto de Estudios Peruanos y Universidad de Miami.
- Stokes, Susan C.
1989 *Política y conciencia popular en Lima : el caso de Independencia*, Documento de

- Trabajo No. 31. Lima : Instituto de Estudios Peruanos.
- 1991 Politics and Latin America's Urban Poor : Reflections from a Lima Shantytown, *Latin American Research Review* 26(2): 75-101.
- 1995 *Cultures in Conflict : Social Movements and the State in Peru*. Berkeley : University of California Press.
- 篠原一・永井陽之助編
1965 『現代政治学入門』有斐閣双書。
- 高橋正明
1993 「都市下層民の運動」松下洋・乗浩子編『ラテンアメリカ 政治と社会』ラテンアメリカ・シリーズ第1巻 新評論, 153-164。
- Tanaka, Martín
1995 Jóvenes : actores sociales y cambio generacional, de la acción colectiva al protagonismo individual. En Julio Cotler Dolberg, ed. *Perú 1964-1994 : economía, sociedad y política*, Perú Problema 24. Lima : Instituto de Estudios Peruanos, pp. 149-165.
- Távora, José I.
1994 *Cooperando para competir : redes de producción en la pequeña industria peruana*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo.
- Tejada Gamarra, Carmela
1990 *Juventud popular y organización : el recorrido de los grupos culturales juveniles en Lima*. Lima : Consejo Nacional de Ciencia y Tecnología e Instituto de publicaciones, Educación y Comunicación Popular "José Cardijn."
- Tocón Armas, Carmen
1997 Organizaciones de mujeres para la alimentación en Chimbote(1990-1992). En Carmen Rosa Balbi Scarneo, ed. *Lima : aspiraciones, reconocimiento y ciudadanía en los noventa*. Lima : Pontificia Universidad Católica del Perú, pp. 187-217.
- 富田与
1993 「庶民階層の政治参加とフジモリ政権」『ラテンアメリカ・レポート』(アジア経済研究所) 10(3): 2-9。
- Tovar Mendoza, Jesús
1996 *Dinámica de las organizaciones sociales*. Lima : Servicios Educativos El Augustino.
- Tovar Samanez, Teresa
1986a Barrios, ciudad, democracia y política. En Eduardo Ballón Echegaray ed. *Movimientos sociales y democracia : la fundación de un nuevo orden*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 67-142.
- 1986b Vecinos y pobladores en la crisis(1980-1984). En Eduardo Ballón Echegaray ed. *Movimientos sociales y crisis : el caso peruano*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 113-164.
- Tovar Samanez, Teresa, y Antonio Zapata
1990 La ciudad mestiza : vecinos y pobladores en el 90. En Carmen Rosa Balbi Scarneo, Eduardo Ballón Echegaray, Maruja Barrig, et al. *Movimientos sociales : elementos para una relectura*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 111-167.
- Tueros, Mario
1984 Los trabajadores informales de Lima : ¿qué piensan de la política? *Socialismo y participación* (28) : 1-14.
- Tuesta Soldevilla, Fernando
1985 *Perú 1985 : el derrotero de una nueva elección*. Lima : Fundación Friedrich Ebert.
- 1989 *Pobreza urbana y cambios electorales en Lima*, Cuadernos Desco 14. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo.
- 1991 Pobreza ubana y participación política : clases populares y cambios electorales en Lima. En Alejandro Toledo Manrique y Alain Chanlat, eds. *Las otras caras de la sociedad informal : una visión multidisciplinaria*. Lima : ESAN/IDE, Escuela de Administración de Negocios para Graduados/Instituto de Desarrollo Económico y

- HEC, École des Hautes Études Commerciales, pp. 275-323.
- Tuesta Soldevilla, Fernando, ed.
1996 *Los enigmas del poder : Fujimori 1990-1996*. Lima : Fundación Friedrich Ebert.
- Yanaylle, María Emilia
1993 《Señora, la admiro》: autoridad y sobrevivencia en las organizaciones femeninas en un contexto de crisis. En Gonzalo Portocarrero Maish, ed. *Los nuevos limeños : sueños, fervores y caminos en el mundo popular*. Lima : Sur, Casa de Estudios del Socialismo y TAFOS, Talleres de Fotografía Social, pp. 115-123.
- 米村明夫
1991 「ラテンアメリカにおける都市下層研究の理論的展開——近代化論的パラダイムから従属理論的パラダイムへ(I)(II)」『アジア経済』32(4): 2-13, 32(5): 29-47.
- Valdeavellano, Rocío
1991 El microindustrial y sus agremiaciones. En Luis Humberto Pásara Pazos, Nena Delpino, Rocío Valdeavellano, et al. *La otra cara de la luna : nuevos actores sociales en el Perú*. Buenos Aires : Centro de Estudios de Democracia y Sociedad, pp. 73-104.
- Vargas Tarrillo, Segundo
1987 *Rondas campesinas : relaciones de poder y movimiento social en la Provincia de Chota (1977-1981)*. Lima : Imprenta Cepea.
- Villavicencio, Maritza
1989 Impacto de los comedores en las mujeres. En Nora M. Galer y Pilar Nuñez Carvallo, eds. *Mujer y comedores populares*. Lima : Servicios para el Desarrollo, pp. 263-274.
- Webb Duarte, Richard, y Graciela Fernández Baca, eds.
1995 *Perú en números 1995*. Lima : Cuánto S.A.
1997 *Perú en números 1997*. Lima : Cuánto S.A.
- Zapata Velasco, Antonio
1996 *Sociedad y poder local : la comunidad de Villa El Salvador 1971-1996*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo.
- Zarzar, Alonso
1991 Las rondas campesinas de Cajamarca: de la autodefensa al ¿autogobierno? En Luis Humberto Pásara Pazos, Nena Delpino, Rocío Valdeavellano, et al. *La otra cara de la luna : nuevos actores sociales en el Perú*. Buenos Aires : Centro de Estudios de Democracia y Sociedad, pp. 105-153.
- Zevallos Aguilar, Emma, comp.
1994 *Mujer campesina : de la costa a la sierra*. Lima : Centro de Estudios para el Desarrollo y la Participación.
- Zolezzi, Mario
1984 Canto Grande : entre los mitos y la realidad de un trabajo barrial. En Francisco Eguiguren, Mario Pardón, Eduardo Palacios, et al. *Experiencias de promoción del desarrollo y organización popular*. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo, pp. 79-93.
- Zolezzi, Mario, y Julio Calderón Cockburn
1985 *Vivienda popular : autoconstrucción y lucha por el agua*, Cuadernos DESCO 1. Lima : DESCO, Centro de Estudios y Promoción del Desarrollo.

[付記] 本論は、1996年度文部省在外研究員（中核的研究機関支援プログラム）派遣事業および1997～98年度文部省国際科学研究費「アメリカ外交の要因としての民主主義」（代表者：大津留智恵子）によりペルーで行った調査研究（1996年12月～97年3月および97年11月～12月）の成果の一部である。